

に俄に澤山の御寺が建ちまして、其御寺には僧侶達が先づ組織的の教育を受けることになつたものであります。で我國の教育史に於ては彼の大寶令あたりに出て居ります大學國學の制度と云ふものは非常に目に立つた位置を占めて居りますが、實は其外に僧侶の組織的教育と云ふものがあつたことを考へなければならぬのであります。聖徳太子が薨去になりましたして間もない頃でありましたが、其の頃に一人の僧が斧を以て自分の祖父を殴つたと云ふ問題が起りました。朝廷では嚴重に之を罰せられやうとした時に、百濟の國から來て居りました觀勒と云ふ坊さんがありまして其事を非常に歎きまして、是は一體僧尼の監督の方法が立つて居ないから斯様なことがあつたのである、故に將來僧及尼の監督を嚴重にすることにそれ／＼の方法を立てることに致しまして、さうして此度の祖父を打つた者の罪は寛大に處置せられたいと云ふことを願出られました許されました。さうして此觀勒と云ふものは最初の僧正になつた譯であります。此僧正の部下に僧都と云ふものを置かれまして、所謂僧綱と云ふものが此時

に始つた僧綱と云ふのは僧侶を監督します人でありまして、是が始でありまして、それから後に段々と制度が整つて参りまして、奈良朝の頃には僧になる試験なり、修業の年數、學科課程など、云ふものがそれ／＼極つて居りまして、さうして最後に試験を受けました後に得度してさうして本當に僧になると云ふことになつたのであります。其の學びます課程は嚴密に定められて居ります、監督の方法も嚴密に立つて居りますことなどは後世の學校の組織と違はないのであつたのであります。

それで斯う云ふ風に此僧尼の教育が組織立てられて参りました年代を見ますと云ふと、推古天皇様の時に既に其始があるのであります。俗人の方の學校、大學、國學の制度などはそれに比べると云ふと幾らか後に起つて居ります。世間に傳へて居る所に依りますと云ふと、天智天皇様の時に初めて大學と云ふものを置かれたと云ふのであります。それを初めとして考へるならば推古天皇様の時に起りました僧尼の組織的の教育はそれより一方先んじて居つたと云はなければならぬのであります。

歐羅巴の歴史は途中で色々な變化を受けて居りますが、希臘時代、羅馬時代を取除きまして基督教的の教育が起りましたから後の結果を見ますと、矢張り最初は僧侶の教育から始つて居ります。さうして其後になりまして武士階級が教育を受ける事になつたのであります。斯様に最初に僧侶が教育を受けたと云ふのは大に意味のある事でありまして、僧侶は人を教へることを職分をするので物質的の生産と云ふものに對して少しも屈托のない人達であります。唯人に道を説いて居れば自分は人から養はれると云ふやうな身分の人でありますから、それで學問をすることが出来たのであります。生活に餘裕が存在して居らないと云ふと教育と云ふものは發達して來ない、其生活の餘裕と云ふものを最初に得た者は此僧侶階級であつたのであります。其僧侶階級の教育に於てどう云ふことが行はれたかと云ふと、勿論其宗教が中心になつて居りますが其宗教には様々のものが附屬致して居ります。宗教の儀式を行ひます爲に音楽もやらなければならぬと云ふことになる。又其御祭りの日を定める爲に曆を作らなければならぬ、曆を作る爲に天文を學ばなければならぬ、數學をしなければならぬと云ふ風になるので、割合に早くから斯う云ふ種類の學問が宗教を中心として發達して參ります。是は大抵何處の國でも同様であります、それで此僧侶階級の教養は後世の専門の學術的研究の源泉になつて居りまして、後世の純粹なる學者的の研究と云ふものは僧侶階級の受けました教育の中から段々に發展して來たものであります。

第五 我國の教育と社會階級

僧侶の次にどう云ふ社會階級が高い程度の教育を受けたかと申すと、政治軍事に關係を有つて居る所の社會階級であります。希臘の教育で見ますと、此 liberal education と云ふ考を生出した所の自由市民が之に相當致して居ります。それから印度あたりで見ますと云ふと、バラモン族と云ふのが僧侶階級でありまして、シャトリア族と云ふのが、軍事或は政治に關係して居つた階級で御釋迦様は其階級から出て來ら

れたのであります。我國では奈良朝から平安朝にかけまして勢力のありました貴族及鎌倉時代以後の、武士がそれに相當致して居ります。歐羅巴の中世に於ては封建武士が之に相當して居るのであります、さう云ふやうな人の教育と云ふものはどう云ふ風にして行はれたかと申すと云ふと、平素に於ては其自分の扱つて居ります所の大小の土地に於て政治を行はなければならぬ。若し共和政治でありましたならば矢張り政治家として活動すべき人達である。それでありますからして政治に對する所の心得がなくはならぬ、それと同時に軍事に關係します人は又軍の事に付ての心得を有つて居なければならぬのであります。それが軍事と政治と兼ねて行つて居ります所の社會階級として現はれました場合と、政治と軍事とは分離致しまして現はれた場合とに依つて多少其教育の現れ方も違つて參ります、歐羅巴の中世の武士の如きものは政治と軍事とを兼ねて居つたものであります。我國の奈良朝、平安朝の貴族は軍事には餘り關係しないで政治の方面にのみ活動して居つた人達であります。さう致しますと云ふと

多少違つて參ります。政治に關係して居つても軍事に關係しない場合に於ては文道と云ふものが著しく尊重せられます、我國の平安朝式の教育と云ふものは此文道であります。熊澤蕃山は斯う云ふことを申して居りますが、……元來文武は並立つべきものである、車の兩輪の如きものである。然るに我國に於て中頃武の輪を捨て、佛の輪を以て入替へたと言つて居りますが、丁度此事實に當つて居るのであります。文學歌を讀み音樂をやりましたり、或は繪を描きましたり、さう云ふやうなことが此時分には盛に行はれて參ります、武の方に偏つて參りましたのは武家時代になつてからであります。扱て此の政治軍事に關係する階級は武道を自分達で作りに出し、前の時代の僧侶の教育から文道を借りて參りまして、文武を合せて教化の内容を形作るのであります。斯の如き形を取つて現はれて參りましたものは我國に於て最近まで教育の理想として考へられて居りました、文武兼備の思想であります。斯様にして所謂貴族社會と云ひますか、或は武士階級と云ひますか、所に依つて現はれ方が多少違つて居りますが、

兎に角政治或は軍事に關係します所の社會階級と云ふものが教化を受ける時代の教化内容は斯の如く文武兩道と云ふ形になる。斯の如き時代の教育に於てはまだ經濟思想と云ふものは現はれて参りませぬ、何故ならば其人達は自分で働いて生活をして居る人ではない、人の上に立つて人を治めることが其職分であつて自ら働いて其生活の資料を生産すると云ふことは眼中にないのであります、隨て經濟思想と云ふものは此時代の教育には現はれて参りませぬ。

第六 市民階級と教育

其次の時代に社會の表面に現はれて参ります所の社會階級は何であつたかと云ふことは所謂市民階級であります、此市民と申しますものは今日新聞雜誌などに頻に書いてあります所のブルジョアジー或はビュルゲルと稱するものであります。西洋の方で申すと、中世紀の半ば頃に都市と云ふものが彼方此方に現はれて参りました。西洋の

都市は商人及手工業者から成立つて居りました、我國の都市と稱するものは或は宮、寺を中心として起りました所謂門前町か、或は大名の城下に於て大名及それに附屬して居ります武士が中心となり其の用を辨せんが爲に商人が集つて來て形成した城下町かで大部分は城下町である、故に多少事情の違がつた所があります。商人及手工業者が其業務を執るに都合の良いやうな場所に自主的に集つて一つの共同生活體を成したものであります。さうしまして其都市の行政と云ふのは最初から彼等が自治的に起つたものでありますから、茲に彼のデモクラシーと云ふ考が起つて來たのであります。此都市の發生と云ふこと、西洋のデモクラシーと云ふ其間には密接な關係を有つて居りますが、是は單にさう云ふ點に於てのみ意味を有つて居るのでなくして教育上からして見まして、又餘程面白い意味を有つて居ります。其商業都市と云ふものが段々大きくなつて商工業者などは段々富を積んで参りますと云ふと、彼等も亦自分達の子弟を教育しなければならぬと云ふことを感じまして、で彼等は其附近にあります所の御

寺に就て僧侶の教育の中の片端ながら自分達の要求する、部分だけを學んで來ると云ふやうな方法を最初は執つて居りましたけれども、段々發展するに隨て彼等自ら自分達の子弟の爲に學校を設けることになりました。其學校と云ふものが從來の教育に比べまして餘程違つた趣を有つて居ります、僧侶の教育に於ても武士の教育に於きましても、言葉を學ぶと云へば古い時代の言葉をやつて、羅旬語が其時分には全盛でありました。所が商人達は一時は羅旬語を習つたこともありますけれども、それよりも彼等に必要なるものは現在使つて居ります所の國語である、國語を以て商賣の取引をします。手紙を書くなど、云ふことは、小難しい羅旬語の書物を讀むよりも彼等に取つて一層大切なことである、それで斯う云ふ風に市民階級の教育が始りますと云ふと、古語の勢力が段々衰へて參りまして、現代國語と云ふものが勢力を教育上に於て有つて來ることになる、それから、數學の遺方なども僧侶階級の時代と市民階級の時代とは餘程違つて居ります。僧侶階級の時代の數學と云ふものは高尚なる學術として唯單

純に理論的に研究するものであつたか、或は之を専門學に應用する目的であつたかでありまして比較的に高尚なることをやることになつて居つた、勿論其時分には學問それ自身がまだ十分に發達致しませぬから、程度は高いと申しましても今日の高等數學のやうなものが其時分からあつた譯ではありませぬけれども、併し比較的に實際に遠い理論的の數學を僧侶階級はやつて居つたのである。然るに市民階級が必要とします所のものはさう云ふものではなくして、商業の取引や何かに直接に關係のありますことを學んで置かなければ間に合はない。それで實用算術と云ふものが俄に教育上勢力を有つて參りました。それで今日でも實用算術のことを此市民算術 (Bürgerli he Peh-eunpude) と申します。此言葉は非常に味を有つて居ると思ひます。それで斯様に學科の内容が市民階級の教育に於ては過去の教育と違つて參ります。著しく茲に實用主義の傾を有つて參ります、是は大に意味のあることでありまして過去に於て高い程度の組織的教育を受けて居りました所の僧侶及武士階級など、云ふものは直接に生産事

業に關係しない階級であつて所謂有閑階級であります。今此市民階級になると云ふと自分が働いてそれに依つて生活の資源を求めて行かなければならないのでありますから、其處へ經濟生活と云ふものが教育に對して著しく影響をして參るのであります。それが能く此歴史的事實の上に現はれて居るのであります、それで此頃になりますと云ふと凡てが實用的になつて參ります。其變化の勢は既に歐羅巴の中世紀の間に段々起つて居つたのであります、此傾向が表面に現はれ出まして一般に教育が大に實用的に傾いて參りますには一つの大きな變動が社會に行はれなければならなかつたが、それが何に依つて成遂げられたかと云ふと、それは歐羅巴の歴史を見ますと宗教改革であつたのであります。之を我國の歴史に照して考へて見ますと、殆ど之と並行した事實を發見するのであります、我國に於て此商人階級と云ふものが徐々に頭を上げつゝあつたのは凡そ何時頃からであるかと云ふと、足利時代の半ばから後のことであると思ひます。併ながらそれが著しく勢力を有つことになりましたのは徳川時代に至り

まして城下町が發展してから後のことである、それで其間に我國の教育が又著しく變化致して居るのであります、其頃の市民教育と申すものは何に依つて行はれたか、是はあなた方が御承知の通り寺子屋であつたのであります。以前は歐羅巴の中世の御寺と同じやうに子供が寺へ通ひまして其處で學問をして居つたから、そこで寺と言ひ寺子と言つて居つたのであります、然るに徳川時代になつてからの寺子屋と云ふものは農村に於てはまだ寺であつたこともある、都會地に於ても少數の寺子屋は實際寺でもあつたでありませうが、多數の寺子屋は俗人の手に依つて經營せられて居つたことは事實であるかうして其教へて居りました所のものが餘程違つて居るのであります、足利時代などの寺子屋は餘りはつきりしたことは分りませぬが、本當の寺に於て學んで居りました時には僧侶の教育と餘り違はないやうなものを受けて居つたのであります。矢張り御經を讀みまじたり、手習をしまじたりして居つた。それが稍々後になりまして多少俗化しまして、世間化しましてさうして和漢朗詠集などを讀んだり傍ら武

藝を教へたりすることもあるのであります。さう云ふこともありましたが、何處かにまだ佛臭い所が残つて居りました。日本の寺子屋に於て宗教が、つた教育をやつて居りましたことは彼方此方に痕跡が残つて居るのであります。例へば林羅山の文集の中に林羅山が松永貞徳に送つた手紙が二通りあります。多分一は未定稿であつたのでしよう。一方は長く、一方は短いです。けれども其言つてありますことはどちらも同じであります。松永貞徳に對して、あなたの所で子供を集めて教授をして居るのは甚だ結構なことである、けれども感心しないことには佛臭いことを教へて居る、佛様の名などを手習ひさして暗記させて居る、どうも面白くないから止めて貰ひたいものであると申して居る、其頃まではまだ寺子屋は多少抹香臭い所があつたらしい所が、それが徳川の半ばから後になると著しく變つて抹香臭いことは無くなつて非常に世俗的に實用主義になつて居ります。或點に於ては今日の小學校よりも尙ほ實用主義である習字が中心であつて習字の手本が同時に讀本であると云ふやうなことで餘程切詰めて

無駄のないやうにした仕組であります。さうして其御手本になつて居ります往來物、などは昔と餘程違つて居ります。日本の往來物と稱するものは平安朝時代からありますが、最初は御公家様の遺取する手紙を集めたもので、明衡往來などは朝廷の儀式に關係したものが多かつたのであります。又御寺に關係して居るものもある。例へば釋氏往來など、云ふものは名も既に佛臭い、貴嶺問答と云つて、來る何日何とかの御法事があつてそれに對してどう云ふ役を勤める、裝束はごう云ふものを用意して宜いかと云ふ問合せの文書、その返事からそんなことばかり書いてあります。さう云ふものが教科書であつたのであります。

それから武家時代になつてから最も典型的の往來の庭訓往來、を見ると外のことも多少書いてあるか。武家のことが主にも書いてある、徳川時代になると商賣往來、番匠往來、など、申して商工に關係した内容が多く這入つて參ります。さう云ふ風になつて參りました多少職業的教育と云ふやうなものが、其中に現はれて參ります。丁

度西洋の方でも市民階級の教育に至つて著しく實用的になつて來たと云ふこと、同じ事實が我國の寺子屋の變遷の中に發見せらるゝのであります。

第七 經濟生活と教育

それで斯様になりました。段々此經濟生活と云ふものと教育と云ふものが接近して參ります、それ以前の僧侶、貴族の教育も絶対に此經濟生活と云ふものと無關係ではなかつたかも知れないが、彼等の眼中に存在して居るものは唯消費經濟あるばかりである、自分で金を儲けることは知らない、又儲ける術もない、唯人から與へられるものを待つて居るだけである。自分の方からは唯それを使ふと云ふことだけが問題になる譯でもありませんから、武士階級の教育に於ても頻に節儉と云ふことが教へられて居る生活が懦弱にならないやうに何時も緊張した氣分でありまして、さうして事ある時に戰爭に出て行くと云ふ時の覺悟をさせる爲に平素極く質朴なる生活をさせることが

必要であつて一方に於て又極端に金を卑しむと云ふ考を注込まなければならなかつた何となれば此武士階級と云ふものは人から貢がれたものに依つて生活して居るのでありますから、それが慾張つて居りますと云ふと他の者が困る、それで其點からも儉約を説かなければならぬ。殊に此武士階級も初は武士と云へば必ず大小の領地を有つて居りまして、少くとも一郷一村の主と云ふやうな姿でありましたけれども、徳川時代と云ふと同じ封建制度と申しましても餘程趣が變つて居りまして、段々後になりましたのは大概の武士は知行所と云ふものを有つて居ない。後藏米の中から切符で渡されることになつて居りました。九州地方の大藩に於ては武士の知行所と云ふものは割當てられて居つた處はあるやうですが、他の處は段々其制度を止めまして武士が土地を離れて仕舞つて、何石を宛行はれると言ひましても土地ではない。唯米で與へられる。併し米を實物で渡されるのでなくして米の札で渡される、さうして其札を商人が買集めまして、武士は札を商人に賣つて金に替へて、商人は家々を廻つて御藏米の札を集

めまして、それを持つて御藏へ行つて纏めて貰つて来て居つたのであります。さう云ふ風に土地を離れて唯今日の俸給生活者と同じやうな風に、米の札を渡されると云ふことに依つて見ますと、今日の官吏と少しも違はない状態になつて参ります。さうなりますと前の時代も尙一層此の清廉と云ふことを説かれなければならなかつたのであります。若し清廉と云ふことがないと云ふと自分の役目に不似合のことなどを仕出したり何かしますから頻に清廉と云ふことを説いて居つたのであります。清廉を説くと云ふことの極が實を卑しむと云ふ考となつて現はれて来たのであります。……支那では非常に早くから封建制度が廢たりまして所謂士と云ふものは、皆官吏生活をして居つたものである。支那の儒教と云ふものは専ら此士の教であります。故に支那の儒教に於ては早くから此清廉と云ふことに非常に重きを置いて居つたものであります、其教訓が又我國の社會状態が其處までになつて居ない頃から我國に輸入せられまして此清廉と云ふ考が餘程強く我國に影響を與へて居ります。此清廉と云ふことはずつと

極端になつて来ますと云ふと金錢を卑しむと云ふ思想になつて来ます。それで今日でも職業教育と云ふやうな言葉を説きますと云ふと何だか理想の墮落と云ふやうな感じを與へるやうになつて来たのであります。所が今此市民階級の教育が段々起つて参りますと云ふとさう云ふことは言つて居られないことになりす。そこで彼等には消費經濟の外に生産經濟と云ふものを又眼中に置かなければならぬことになりまして、餘程趣が違つて来た、是が此學びました學科の上にも明に現はれて来て居るのであります。斯様にして其市民階級が起り其學校教育は實用主義に傾いて参りました、此時分に職業教育がどう云ふ形にあつたかと申しますと云ふと、まだ此頃は餘り組織立てられて居なかつたのであります。

第八 我國の職業教育

元來此農業と云ふやうなことは何の理窟もなく唯見習に依つて何月頃に種を蒔き之

にどう云ふ肥料をやると云ふ様なことを親から子に見習に依つて傳へられて居るのであります。商業にも他のものでも初はさう云ふやうな形でやつて居つた、けれども段々仕事が複雑になつて参りますれば組織立つた教育を受けなければならぬことになつて來るのであります。其事は職業教育の組織化と云ふ所で御話しやうと思つて居ります。

兎に角斯様にして此教育と職業と云ふものが段々接近しやうとして居りましたが、最近に至りましてもう一つ大きな變化が起つて参りました。それは何であるかと云ふと一つは農民階級が段々勢力を得て來たことであり、それからそれに引續いて勢力を得て來ましたものが此工業労働者であります。此工業労働者と云ひますと、前の市民階級の所で御話致しました手工業者と違ふのであります。前の手工業者と云ふのは名の如く手で使ふ所の道具を以て仕事をするものであります。茲に言ひます所の工業労働者は大仕掛の機械と動力とを使つて居る工場仕事をする者であります。此

農民階級と工業労働者と云ふものは段々數が多くなり又其勢力が増して來ますと云ふと、又此教育の上に一つの變化が現はれて参ります。彼等の要求に應ずる如く教育が又其處に現はれて來なければならぬのであります。それは我國の教育に於ても多少は現はれて居りますが、まだ餘り顯著でない時分に此の社會に變動があつた。西洋の方では、第十七世紀から第十八世紀頃までの教育に農民階級の擡頭と云ふことが學說の上に確に影響を示して居ります。それよりもつと大きな變動を與へて参りましたのは第二の工業労働者であります。工業労働者と云ふものに教育が普及するやうになりましてから様々なる變化が茲に現はれて参りました。参りましたと云ふより現に表はれつゝあるのであります。最近の此教育界に現はれて参ります、或は實業教育とか、或は社會教化運動とか職業指導とか云ふやうなものは皆是に關係を有つて居るのであります。其れのみならず手工を學校に於て課することも其一です。教育者は今日の手工科と云ふものを色々の立場から説明致しますが、心理學的に與へられる説明

も間違ではないのですが、社会的に観察しますと、工業労働者の多くなり、又組織的の教育を受けることになつたと云ふ事實と關係のあることは全然否定することは出来ないと思ひます。

それで斯様に社會の一部分々々から段々教育が始つて参りましてそれが社會の全體に普及するやうになつて來ました事實を考へて見ますと云ふと、何時でも生活に餘裕の生じて來ました所には組織的の教育が起つて來ると云ふことが一つ發見せられます。それから其組織的の教育を受けるやうになりました、其特殊の社會階級は自分達の階級に都合の好いやうな風に其準備教育の内容を組織すると云ふことが又第二の事實として發見せられ、それから特別の社會階級が既に組織的の教育を受けて居ると第二に又他の社會階級が其高い程度の教育を受けるやうになると、大抵は前の時代の優越階級の受けて居りました教育から自己に必要な要素を取り更に自分の必要に應じて造り出した新要素を附加へて更に第二の教化を形成る、其社會階級、社會階級が受

けて居ります教育の其タイプを名付けて私は教化類型と言つたのでありますが、是は私が勝手に製造した言葉でなくて *Wilmann* 云ふ人が言うて居ります。第三の階級は前二つの時代に現はれて居りました優越階級から自己に適當なるものを取入れ、或は新しいものを附加へて第三の教化類型を造ると云ふやうな風にして段々續いて行くのであります、それで其間の段々教化類型の變化を見ますと、それが全體として此社會全體に發展するに如何なる意味を有つて居るかと申しますと、斯う云ふやうな風に考へられるのであります。

特殊の社會階級の其生活状態と云ふものは比較的に特殊條件に限られて居りまして人間の有ゆる活動の中の或一部分特に著しく特殊の階級に現はれて來る、それで此社會階級の間に教育が廣まるに連れて種々の社會階級の造り出した要素が教化類型の要素を形作ると云ふことになる、それに依つて段々人間の活動の有ゆる方面が摘發せられて、さうしてそれが教育の要素となつて加つて來ると云ふことを示して居ります

それでどう云ふことが特殊の教化類型に於て著しく現はれて来るかと云ふと、僧侶階級に於ては宗教が最も主要なる地位を占める、其を中心として高等なる學術的研究が行はれると云ふことが特色であります。武士貴族階級の教育に於ては文武兩道が中心で、其後期になると趣味の教育が著しく重んぜられます、市民階級に於ては教育を實際生活と結付けて考へなければならぬ爲に、實用的の學科が多く這入つて来る。それから最後に工業労働者、農民階級が教育を受けることになる、過去の種々の社會階級に於て見るこの出来なかつた新しいものが這入つて来る、それは何であるかと云ふと筋肉運動の訓練と云ふものが這入つて来るのであります。筋肉運動の訓練と云ふものは武士階級にも武藝として一度現はれましたが、武藝と云ふものは筋肉運動として寧限られた性質を取つて居りますが、今は其と違がつた意味で筋肉運動の訓練をやらなければならぬことになつて參りましたが、さう云ふ風に特殊の社會生活から必要を感じられた要素がぼつり／＼引出されて其が集積融合せられることに依つて人間全

體の理想が圓滿に近付いて來ると云ふことを示して居るものであると云はなければならぬ譯であります。過去の平安朝の月卿雲客なんと云ふものは音楽をやつたり歌をやつたりして居ましたが、其を直に墮落した生活であると排斥して仕舞ふと云ふことは出来ない。今日の教育に於ては如何なる社會階級の者にしても矢張り趣味の涵養をやつて居る、圖書唱歌は總べての社會階級を通じて學ばれてゐる、其と同時に町人のものであつた、實用算術やら職人のやつてゐた手工やらは貴族の子弟にも學ばれてゐる。斯うして人間のあらゆる活動が認識せられ、教化内容の要素となる、今日に於ては社會全體の共通なる文化と云ふものを背景として共通なる基礎教育と云ふものを施して其上教育の程度が進むに隨ひ、各人の才能と境遇に應じて教育も分配して行かなければならない時代になつて居ると言ふことが出来ると思ふのであります。

それで實際の教育の變遷の上に於て如何に教育と職業とが關係してゐたかと云ふことは大體お解りになつたことと思ひますが、之を概括して申しますと云ふと、直接に

物質的の生産を増すと云ふことを職業と考へれば、それは少し違つて参りますけれども。職業と云ふ意味を廣く解釋致しまして、兎に角何等かの仕事を自己の爲又社會に對して爲すべき爲に人間が教育を受けたのは悉く職業教育であるとするならば、過去に於て職業教育ならざるものは一つもなかつたと斯う言つて宜いのであります。それで最初に申しました Liberal education 一般修養を以て目的とする教育と云ふのは希臘時代の自由市民の教育を指して居るのでありますが、其時分には奴隸と云ふものがありまして自由市民は其に關係しなかつた、其故自由市民は精神身體を練つて國家の爲に働くことゝ、閑暇を有益に使用する爲、換言すれば人品修飾の爲に一種特別の教養を受けました。其が所謂 Liberal education で、今日から見れば決して一般的修養でなく、特殊の社會組織が生み出した、特殊の修養であります。然るに一度 Liberal education の思想が現はれてからは、其が永く西洋の教育思想を支配致しまして、ヘルバルト學派の如きも未其影響を脱してゐません、我邦は最近まで少くとも表面武士が優越階級と

して立つてゐました、文武兩道の思想が教育を支配してゐました、是は西洋の Liberal education と同じ性質のものであります。従つてヘルバルト派などの一般修養説が入り易かつたのであります。ヘルバルトは矢張りカントの影響を受けて居るのであります。教育説の上にも其影響は現はれてゐます、然るに此職業の問題に付てはヘルバルトの教育學は同じくカントの影響を受けてゐるフヒテなどゝ大分違つて居る、ヘルバルト派の教育説に於ては教育と云ふものゝ範圍を明瞭に限ると云ふことの必要を感じて、それでありますから一般的の修養、凡ての人生と云ふものを進めることが一般の教育であると云ふ定義を設けて特殊なる要求と云ふものは別の物と考へたのでしよう。教育的教授と非教育的教授の區別を立て、一般修養の爲に役に立つ教授が教育的教授である。特殊の社會階級、或は特殊の職業の爲に行はれる準備の仕事は是は嚴密なる意味の教育に屬して居ると云ふ風に考へたのは其爲と思はれます、我國の教育學には著しくヘルバルト派の影響が這入つて居ります爲に今日も餘程強く此考が這入つて居

ります。けれども前から申しました所に依つて自然に之を御了解になるだらうと思ひますが、過去の一般修養と云ふものは特殊の社會事情に依つて生れたもので矢張り本當の一般修養になつて居ない、眞の一般修養と申すのは矢張り先刻申したやうに種々の社會階級がそれ／＼の立場から要求した所の要素が悉く集りまして、さうして初めて圓滿なる人間と云ふものゝ理想が描き出されて其各方面に亘ることが本當の一般修養であると云ふ風に考へることが正當であります。人間は執る所の務は違つても必何かの仕事をして共同生活の爲に貢献しなければなりません、廣く解した職業は是を指すのです、假令父祖傳來の財産が豊であつても徒食するものは大なる罪惡であると云ふことは今日ではもはや一般に意識せられて來ました、其共同生活に貢献する爲めに或技能を養ふと云ふことは凡ての人に共通に必要であります、其選ぶ所の道が異なるが爲めに教育の範圍外に置くことは出來ません。

西洋の教育學者も皆ヘルバルト派の如く職業教育を見てゐるのではありません。ル

ソは自然人を理想とし、社會を呪ひました、其立場から見ると職業教育などは否認しさに思はれますが、ルソの自然人は爵位財産其他何物を失ひ如何なる境遇に置かれても自活し得るものでなければなりません、自活するには職業を要します、ルソは農業を最良の職業としてすゝめてゐます。農業に次では手工がよいと云つて居ます、ベスタロツチは勞働と學業とを併進させることを實際に試みた人であります。ヘルマン・フランクも同様であります、フヒヒテは人々の職分を非常に重く視ました、彼の理想の學校は自給自足の一共同生活體で學校内で、必要とする一切のものは學校内に於て生産せられなければならぬと考へて居ました。

そこで最近の教育學者の思想に付てお話を致す筈であります、其前に職業教育が如何に組織化せられて來たかと云ふことを見ることに寧ろ便宜であります、先其を述べまして後に最近の傾向を御話したいと思ひます。

前にちよつとお話致しましたやうに職業に關する訓練と云ふものは最初は餘り骨は

折れなかつた、又組織的に順序を立て、教へる方法も備はつて居なかつた、それで唯見習と云ふ事より外致方がなかつた、又それで十分でもあつたのであります。所がそれが稍々組織化せられましたのは、彼の年期奉公制度と云ふものが現はれた時からであります、近頃徒弟制度と云ふ言葉が用ひられますが、私は一體に昔から用ひ來つた言葉を使つた方が間違が起らなくて宜いので私は徒弟と云ふ言葉より年期奉公と云ふ言葉を使ひます。西洋ではアブレンチスシップです。西洋ではそれが何時頃に起つたかと云ふ事に付て詮議をして居る人がありますが、羅馬時代には一向見えて居らないのであります。勿論社會の状態から見ましても羅馬時代に起つたものでないと思ひます、中世紀の中頃からは存在して居つたやうであります、是は何時となく自然に始つた制度でありまして、法令で以て最初から制定せられて居つたと云ふやうなものでなくして、何時が起源であるかと云ふことは断定する事は困難であります。自然に社會に出た様式がありますから其點は分り悪いのであります、大體我國では足利時代の

半頃から始つた制度の様で、それが最近迄繼續して居つた。最も嚴密に行はれしは手工業者の間で商業家にも行はれて居つたのである。西洋も略同一である。

第九 學校に於ける職業教育

所が第十九世紀に至りましてこれが段々と崩れ掛つて參りました。それと同時に學校に於ける職業教育と云ふものは始つて來たと云ふことになつて來ました。其の事情は西洋の方が先き立つて居りますから其の方を申しました方が宜かつたかと思ふのであります、一つは大規模の機械工業が起つて來ました結果であります。これまでは手工業であつて、手で使ふ所の道具、鋸とか、鉋とか、云ふものを使つて居ります間は、其の呼吸を教へるまでには非常に長い年月を要します。所が機械工業が盛になつて參りますと同時に分業が細かになつて來まして、色々動力を使用して機械に依つて極小部分の仕事を分擔してやりますと、仕事は簡單になつて參ります。それが一つの

原因である。そんなに長く何年も何年も年期奉公をやらなくても仕事が出来る。又其頃になりました、所謂自由競争主義の經濟説と云ふものが起つて参りました。是は英吉利のアダムスミスが代表的の人であります。是等の人は從來の年期奉公制度に依ると其年期を終つた者でなければ其職業に従事することが出来ないのは自由競争の主義に反すと考へました。日本でも職人仲間では年期を終つた者でなければ一人前の職人と見ないことになつて居ります。西洋でもさうであつたのであります、職業の種類によりましては猶遊歴が必要とせられて居ました、此遊歴を終りまして後獨立が出来るので獨立の營業を認める權利は其同業者の組合にあつて、年期奉公が終りました者でなければ其組合が免許しない、と云ふ組織になつて居りました。アダムスミスのやうな自由競争主義の經濟學者はそんなに何年も何年も年期奉公をやつた者でなければ營業を許さないと云ふことは不都合である、誰でも自分の思ふ通りに勝手自在に働けば宜いのである。それを同業者の組合で制限することは不都合であると云うて攻撃したも

のである、そこで年期奉公は段々崩れて参りました、それで今度は別の方法を執らなければならぬことになりました。其には又もう一つの違つた理由がそれに加つて参るそれは何であるかと云ふと、機械工業が出来ました爲に分業が細かになると云ふと一人々々分擔する、仕事の範圍が狭くなりますから誰にでも出来るやうなものであるが倍一步進んで其機械なるもの、取扱に付て多少心得を有つてやると云ふことになる。今度は非常にむづかしいことになつて参ります。唯手で道具を扱つて居ると違つて機械の組立とか色々さう云ふことを知らなければならぬことになつて参ります、さうなると唯職工として、而かも不熟練職工として簡單なる仕事をやつて居るだけなら宜いが、所謂職工長となつたり何かする場合に於てそれだけでは足りないことになる、さうすると今度は特別の教育機關が必要になつて参ります。同じやうな現象は商業農業の方にもありまして、業務其ものが學理的に組織せられなければならぬことになつて参りましたから、そこで職業教育と云ふものは普通の學校の系統以外に立つて別に

組織せらるゝやうになつて職業學校が起つた譯であります職工長も必要であり技師も必要ですから、そこで色々な階級の實業教育の學校が起りました。補習學校もあれば中等實業學校もあり、又大學程度の實業學校も起りました。僅ばかりの年月の間に實業教育が組織的になつて來ましたことは、第十九世紀の教育史に於ける大きな出來事であります。

茲に又一つの注意すべき社會的の事情があります、機械工業の起りました爲めに生じた工業労働者と云ふものは極めて氣の毒なるものであつたのであります。其職工達は初は純然たる機械の奴隷であると云ふやうな状態であつた、工業労働者は機械の奴隷であると云ふやうな言葉は今日でも往々唱へられます、併ながら事實は今日よりさう云ふ事を彼等自身自覺しなかつた機械工業の初めて起つた時の方が生活が苦しかつたのであります。所が之に對して同情をする者が段々出來まして、さうして彼等に對して所謂民衆教化事業と云ふ者を起しました、其は英吉利のジョンラスキン、トーマ

スカーライルなどであります。其他猶知識階級から出た種々の人々の啓發によつて次第々々に此工業労働者の地位は高まつて參りました、収入も段々増加して參りましたのであります。それで今日でも矢張り労働問題と云ふものはやかましく唱へられて居りますが、今日の所謂労働問題と云ふものは實は労働社會の少くとも熟練職工の生活の問題ではない、社會的地位の問題であります、食ふことが出來ませぬからして、さうかして呉れと云ふやうな時代は最早取越したのであります、それだけ労働者の社會的地位は高まつて居るのであります。

さう云ふ風に労働者の方に於ても幾分か生活に餘裕が出來たと同時に普通教育と云ふものを有ゆる社會階級に於て普及させなければならぬと云ふことが段々明瞭に認められました、さうして義務教育制度が各國に於て實施せられることになりました、是が大體矢張り第十九世紀後半の出來事であります。獨逸の如きは文化國中に於て早く義務教育制を實施した國であります、英吉利などは大分遅かつた、國々によつて遅速

はありますが、第十九世紀の終りに於ては何處の國でも義務教育制度を執ることになりました。而も義務教育の年限は段々と延長せらるゝ傾になつて來て居る、殊に今度の世界大戰後に於ては等しく小學校の八學年修學と云ふものが高く唱へられるやうになつて參りました、それに先達つて獨逸などでは補習教育と云ふものを既に義務教育の一部分に看做して居りましたが戰爭後になりまして英吉利も同じ主義を執るやうになつた。所がさう云ふ風に八學年も教育をやると云ふことになる。と教育のやり方も考へなければなりません、以前ならばもうそれ以前に子供は多少の勞働をやりまして家計の一部を助けると云ふやうなことも出來たのであります、そんなに長く學校生活をやらせることになる。と其が出來なくなる、又漸く長い學校生活を了つた後には直ぐに社會に出て働かなければならない、然るに社會の實際生活に付て一向心得がない、何か極つた職業を覺えて居るのでもない、又人が雇つて呉れる譯でもない、さう云ふものを如何にするかと云ふ問題が當然起らざるを得ない。それが從來のやうな風に階級

的に如何なる階級に生れた子供はどう云ふ職業に従事すると云ふことが極つて居ります、而も實業補習教育が稍々早くから始まりまして、それが義務教育の一部分に爲して居る獨逸の様な所では其問題は起つて來ないかも知れませぬが、全く自由競争に委せてありまして、補習教育があつても割合にまだ形が整つて居りませぬ國に於ては其問題は餘程重要視せられざるを得ない、それが最近亞米利加に於て此職業教育問題が非常にやかましくなつた理由である。と云つても宜からうと思ひます。ヴォケーションナル・エデュケーションと云ふ言葉は亞米利加では非常にやかましいものであります。

是は戰爭の始りました二年目でありました、私が亞米利加を通過致しました時分に亞米利加の教育者に、此國で吾々の注意しなければならぬ問題はなんですかと聽いて見ますと、誰でも一樣にそれは職業教育であると云ふことを言つて居りました。其が段々具體化致しまして、千九百十六年にスミス・ヒューズ法案が合衆國議會に提出されしました。此議案に依ると華盛頓の合衆國政府の中に實業教育局と稱するものを置きまし

て、其處に澤山の金を持つて居つて各洲に於ける職業教育を奨励すると云ふことを主張したのであります。其奨励せらるべき事業は農業商業工業を含んで居るのみならず職業教育の教師たるべき者の養成をも含んで居ります、それ等の事業に對して華盛頓政府からして、奨励金を出すと、それを貰ひました所の各州が又同額の金を同一事業に對して支出して、(向ふ十年間繼續しよう云ふのです、但金額は年度によつて違があります。中央政府から五割、各州から五割出ますから合せて百になりますから之を50—60法と言ひまして、米國ではかゝる場合によくやるのです、それに依つて唯今申しましたやうに農業工業商業及其教師の養成と云ふ事を奨励しやうとしたのであります。其農業商業工業の如きものは何處に於て授けられるかと云ふと、是は一般のブリックスクール、小學校であります、小學校に於て殊に十四歳以上の子供、中等程度の學校、大學、カレッジ以下の學校に於て行はるべきものであると云ふ事になつて居つたのであります。千九百十七年に通過しまして法律となりました、是が最近に

於て注意すべき事柄であります、或はスミスヒュース法に付ては他の講師の方からも御話があつたかと思ひます。

斯の如く奨励の方法などが設けられて來ますと同時に學校教育の方面に於て又注意すべきことが起つて參りました、其一つはフランシスパーソンなど、主張し始めたのであります、ヴォーケシヨナルガイダンスでは、今日此講習會の題目になつて居ります所の職業指導であります、是が非常に注意すべき問題となつてそれに關する議論は書物となつて出てゐますし、雜誌にも澤山に現はれてゐますから、その問題に關してはプログラムによりますと、横濱の高等工業の水野常吉君が實際の状況をお話になることになつて居りますから茲に委しいことはお話することは致しませんが、要するにヴォケシヨナルガイダンスとして唱へられて居ります仕事の範圍は今日ではまだ十分確定して居らないのであります、學者の議論もまち／＼であります。それを無理から概括して申すと、第一全體の初等學校が將來の生活と云ふものを最初から眼

中に置いて學科課程を組まなければならぬ云ふことも含まれて居る。第二には子供の性質を始終觀察してどう云ふ職業に向けしむべきかと云ふ事を教育者の方でも平生能く調べて置くこと云ふことも含まれて居ます、其には受持教員の見込に重きを置く人と心理的調査に重きを置く人があります。第三には世の中には一體幾つどう云ふ種類の職業があつて、其職業の各々がどう云ふ性質を有つて居るものであつて、それに従事するとどう云ふ社會的地位が得られる、自分の健康に對してどう云ふ關係を持つかと云ふこと、此職業事情と云ふやうなものを教へる爲に特別の時間を設けてやると云ふやうなことを往々試みて居る所があります。職業に這入ります前に職業世界の地理を教へて行くやうなものであります、第四にはトライアウトクラスと云ふものを設けまして極く僅の程度で、此職業と云ふものはどう云ふ性質のものだと云ふことを大體理解させ、何に適するかを見る爲に仕事を實習さして見ることもありますが、但是には賛成しない人もあります。

第五には職業の選擇の問題があります。其爲には學校が自ら職業の紹介をすべきものだと云ふ考の人もある、又職業紹介は學校以外の機關に委ねべきものだと云ふ考の人もあります、終には選んだ所の職業を段々續けて行つて尙段々其の能率を高めて行く所の方法を講じなければなりません、さう云ふ種類の問題に亘つて職業指導と云ふものが唱へられて居る譯であります。唯今お話ししましたやうに學者の意見が十分に一致して居りませぬが、兎に角現代社會に於ては必要であると思ひます。

第十 職業教育の學校と普通教育の學校

そこで此トライアウトクラスの遣方であるとか、或は此職業世界の案内と云ふやうなものも學校の科目として教へると云ふことになると云ふと、普通教育の學校に於きましても純粹の職業教育ではないが、學校生活と職業世界との間に橋渡をするやうな一種の教育と云ふものが其間に生れて來なければならぬことになります。それが即ち

プレヴオフォーケシヨナルエデュケーションと稱するものであります、是も近頃作られた言葉でありまして、準備職業教育をせられて居ます。學校教育が實際生活と接近しなければならぬと云ふこと、職業教育が必要であることは今日最早異論はないと云つて宜しからう。

亞米利加に於ては先年東京へも來られました、ジョンデウキ、獨逸に於ては、ケルシエンシユタイナーなどは其主義の代表的論者であります。此主義を進めて参りますと、自然普通教育の學校にも職業教育の一部少くとも準備職業教育が這入つて來ることになります、其點になりますと、又學者の意見が分れて参ります。米國ではスミスヒューズ法が出まして中央政府が先に立つて各州に於ける職業教育を獎勵することになりましてから獎勵金を受ける爲めに普通教育の學校に商業要項とか、工業大意とかの科を加設しまして、實業教育的の色を帯びさせることが流行し始めました、所がそれに對して多少警戒的の意見を發表して居る人があります。それは彼のバトラー

ネッデン等の人々であります、バットフは著書の中に於ても職業教育其ものを決して否定して居らないのみならず、寧其必要を説いて居ります、スネッテも職業教育を認めて居りますが、是等の人々は職業教育の學校と普通教育の學校をキツパリ區別し職業教育は普通教育を終つた後に來るべきものだと言ふのです。最近兩氏とも更に其意見を明かにして居ます、最近エデケイシヨナルミウデーと云ふ雜誌の中でイネッデンの意見を讀みましたが、自分は職業教育それ自身に對して非常に熱心である、自分は同情を有つて居るのである、併ながら今日の遣方は中途半端である、小學校中學校では矢張り普通教育を専らやつて一般修養の方に傾いて居る方が宜い、それを終つてから後に純粹の職業教育をやるが宜い、今日やつて居る所のは眞似事であつて本當のものでない、それで唯工業一般とか、或は商業一般とか云ふ漠然とした名前やつて居りまして、それが實際の役に立たない無駄なことであると言ふやうなことを述べて居りますが是は成程注意すべき一つの問題であらうと思ひます。それで私共は

とう云ふ風にそれを考へて居るかと申しますと、要するに從來のリベラルエデュケーションの思想は改造して、一般修養でなければ眞の教育でない職業教育と云ふのは教育理想の墮落であると云ふ風に考へることは止めなければならぬ。寧ろ職業教育と云ふものを俟つて一般修養と云ふものは完成せられるのであると云ふ立場にならなければならぬ、是は明に申して差支ないと思ふのであります。それで私共其立場からして申しますと云ふと、此プレヅォーケシヨナルエデュケーション、即ち準備職業教育と云ふものに對しても或程度までは之を學校教育に加へて差支ないと思ふのであります殊に義務教育年限が延長せられると云ふことになる、終りの學年に於てさう云ふものがあつて差支ないと思ふ、少くとも學校教育と云ふものが實際の仕事に近くなつて居なければならぬと云ふことは一般的に要求して宜い、それから學校の先生が其子供の生活或は長所短所と云ふやうなものを始終注意して居りまして職業を選択する場合に於て相談相手にならなければならぬと云ふことは、是は當然のことであると思ひま

す。

それから特殊なる教科として教ふべきものであるか、或は國民教科、と云ふやうなものに連絡して居ることであるか知らぬが、一體職業世界と云ふものはどう云ふ風になつて居るものであると云ふ理解を與へると云ふことは有ゆる階級の人に對して必要なる矢張り一般修養的意味を有つて居る重要なものであると思ひます。それはもう工業に従事したり商業に従事したる人でなくても誰でも此職業世界と云ふものゝどう云ふ風に組織せられて居るかどう云ふこと其職業々々に於てどう云ふ素養を必要とするか、或はどう云ふ利益、どう云ふ害があるかと云ふことを心得て居なければならぬと思ひます。唯スネツターや何か頻に攻撃して居ります所のトリアウクトラスと稱するものに對しては私はまだ實際に試みなければ、其利害を斷定することは出来ないが、或は甲の職業乙の職業を少しばかりづゝやつて見れば結局得る所なくして、時間と勞力と經費を無駄にすることもありません、これは理論上の問題でなくして實際の

方法上の問題として大に考へるべきものであると考へて居ます。労働紹介の仕事までも學校がやるべきものであるか、或は是は一般社會事業の方に譲るべきものであるかと云ふことは一つの問題であります。唯學校の管理者或は教師と實業家との間に連絡がありまして、卒業した子供が職業に有付きます迄の便宜を計つてやると云ふことに學校方面からも相當の力を用ひなければならぬと考へます。職業指導の必要を説く人は云つてゐます、凡て今日各種の仕事に従事して居る人を見ると、最初から相當の修養を積んでさうして這入つて行つたものは殆ど居ない、所謂ピツクアップ・メンツドで彼方につかり此方につかりして居る中に、或は指物師になつたり、或は電氣の職工になつたりしてゐる、本人から見ると寧偶然にさうなつたので、最初から計劃して其職業に就いたものではない、それが甚いけない。系統的の職業教育を受け、組織的方法を以て職業を選ばなければなりません、本意からでなく偶然に職を定めた人はまじめにならない、随つて何時まで経つても腕が上らない、所謂不熟練労働者と云ふ

中に追込められることになる。何時まで経つても頭が上りませぬから不平を抱く、これが危険思想と見られて居るかの F. W. W. を發生せしめた眞の原因であると云ふのです。

第十一 職業教育と營利主義

最後にもう一つ申さなければならぬ問題があります、斯様に私共は職業教育の大切なことを申しましたが、其職業教育と云ふもの、根本の動機に於て忘れてはならないものが存在して居るのであります。それは何であるかと云ふと、此職業教育の根本の動機が營利主義であつてはいけないと云ふことであります。茲に私が營利主義と申しますのは個人主義の物質的獲得慾を意味して居るのであります。さう云ふ立場を本として職業教育を施せば全然失敗であります。さうして全然それは誤つたる方法であります。

今日の職業は色々ありますが近頃亞米利加あたりでは、プロフツションと、トレードとの區別に就いてやかましく議論してゐます、私は此プロフツションを公職トレードを營利事業と譯して置きます。戦後の生活難は教員優遇問題を惹起し、其が本となつて小學校の先生達の仕事は公職であるか營利事業であるかと云ふ問題から議論が起つたのです、一方教員優遇を説くと同時に一方學校教員は營利事業をやるものでなくして公職者であると云ふことを頻に言ふのであります。公職と營業と云ふものは何處に違があるか、公職に従事して居る者も其仕事に對する報酬に依つて生活すると云ふことは當然のことでありますが、其は二次的の意義で、第一義は社會公衆の爲の事業たることに存する、營利事業とは其根本の動機の置き方が違つて居ます、營利事業も其仕事の結果が社會全體の福利を増進する上に意義を有つて居ります、けれども其方よりも個人の利益と云ふものに重きを置いて營まれて居つて其社會的意義と云ふものは附隨的の二次的になつてゐます、要するに公職と營利事業は、動機のある所、

換言すれば其事業の社會的意義が、従業者及社會一般の意識に於て重きをなすか、なさぬかによつて別れて來るのであります、結局程度の差で根本的に相違がある譯ではない。

235—導指業職

一般に事業の社會的意義が明瞭になつて、従業者が是を以て動機とし、社會も之を認識し、日時に要求する様になれば一切の業務は皆公職となる譯であります、職業教育は是を理想としなければならぬ。先刻擧げましたケルシンシュタイナーとデュエーの二人の如きは職業的教育の眞の動機は社會の共同生活の爲と云ふことに非常に重きを置いてゐます。吾々も亦同様にさう云ふ立場の上に立たなければならぬものである若し是が個人的の立場から見ました獲得主義を煽動すると云ふ結果に陥りましたならば職業教育と云ふものは却て有害になるものとならないとは限らないのであります。色々な問題に亘りましてさうして而かも餘り一つの問題に立入つて詳しく説明する時間がありませぬでした爲に分り悪い所もありましたでありませうが、大體豫定の項目

に付てお話を終りました。(了)

法學博士 上田貞次郎述

第四篇 日本に於ける實業の現狀に就いて

第一 緒言

此の講習は職業指導に就ての講習と云ふことでありますが、餘りに今までに聞いた事がない新しい御試であるので、私もよく其の趣意を了解し兼ねたのでありますが、兎に角私の御引受致したのは日本の商業と云ふものが、今日どう云ふ風な形勢になつて居るか、また此の商業にはどう云ふ人が従事して居るかと云ふことを大體申上げて見たならば自然兒童の養成方、或は其の就職に付ての指導をなさる上に於て何か御參考になることがあらうかと考へて居るのであります。

第二 商業の範圍

尤も此の商業と申しましても非常に範圍が廣うございますので、學問上から商業と云ふものはどれだけのものを指して居るか云ふ議論になつて來ますと云ふと、大分面倒であります。併ながら大體之を搔摘んで言ふならば、商業と申しますと、一方に農業或は工業をやる所の所謂生産者と云ふ者があつて、他の一方には一般の公衆即ち消費者があります。總ての人間は一方に於て生産者であつて同時にまた消費者である特別に消費ばかりして居る人、特別に生産ばかりをして居る人、と云ふのはありません。生産ばかりして消費しなければ死んでしまふ。また消費ばかりして生産をやらなければ身代限りになる。今日の世の中は分業でありますからして生産をすると云へば何か或特殊のものを生産して居る。併し消費する方は分業は無いのでありますからして、其の趣味や習慣に依つて多少の相違はあるにしても、各人が色々の物を消費すると云ふことになつて居ります。そこで生産者から品物が出て消費者の手に入るまでの橋渡と云ふことが、商業の仕事であると、斯う申して宜からうと思ふのであります。

239 ———— 導 指 業 職

併ながら右申す通りの意義に於ける商業と云ふものと、それからして普通に商業教育などと言ふ時の商業とは大分範圍が違つて居ります。商業教育と云ふ時の商業が大分に範圍が廣い。それはどんなことかと云ふと、總て品物——商品の取扱に幾らか關係のあることで金を取扱ふ仕事……漠然として居て或は御分り難いかも知れぬが、金を取扱ふ仕事と私が申しますのは、自然の物を或は養殖するとか、或は栽培するとか或は加工するとか云ふやうな物質を取扱つて居る仕事は農業とか云ふものの本來の仕事ですが、其の出來た物を賣るとか買ふとか、或は賣買をするに付て其の品物を動かすために運送をするとか、又運送をするに付ては之に保險を附けなければならぬ、それから代金のやり取り云ふことになりますと、之を助けるために銀行がなければならぬと云ふやうな譯で、金を取扱ふ仕事が本來の商業、第一の意味に於ける商業の外に大分澤山にあるのであります。さう云ふものは其の性質を突詰めて見ますと云ふと、普通矢張り商人のすることと餘り違はない。是は矢張り商賣人のやる仕事、少し意味

を廣くするために實業家と云ふ言葉を使ひますが、實業家のやる仕事になつて居るので、實業家の中にも大きい實業家もあれば小さい實業家もあるが、其の大小の實業家を養成するのが即ち商業教育の目的になつて居る。

斯う云ふ譯でありますからして、人間を養成すると云ふ側から見ますと云ふと商業と云ふものは狭い意味の商賣とそれから其外の一般に金を取扱ふ仕事と、斯う云ふ風に了解して見たいのであります。甚だ漠然たる言ひ方かも知れませぬがさう云ふ風に考へて宜いと思ひます。そこで此の漠然たる甚だ廣い意味の商業なるものが日本に於てどんな風に今まで變遷して來、また現在變遷しつつあるかと云ふことを申上げて見なければならぬ。

第三 維新前に於ける商業

維新前にありましては、商賣の範圍と云ふものは甚だ狭かつた。其の狭かつた理由

は何處にあつたかと云ふと、大體日本人の生活と云ふものが、主に所謂自足經濟、自分の一家の中で出來た物を其の一家に於て消費すると云ふことになつて居つた。今日でも自分の家で米を作り、自分の家で野菜を作り、自分の家で糸を紡ぎ、織物を織つて、さうして自ら耕して食ひ自ら紡いで着ると云ふやうな生活をして居る者も極く山奥へ行けば無いこともないがさう云ふ生活方法が昔の日本人大多數の生活であつた。詰り日本が百姓國であつたのである。百姓國であつた時代には何處の家でも大抵自分の家で使ふだけは自分の家で拵へるのでありますから、他所から買つて來ると云ふ必要もなし、他所へ賣ると云ふ必要もないのであるから商賣の必要は無い。けれども其の時分に於ても日本人の總てが百姓であつた譯ではない、其處に侍即ち武士と云ふものが大分あります。此の侍と云ふ者は經濟上から申せば消費専門の人間であります。先刻私は消費ばかりして居る人間が無いと云つたが、併し少しはあるので、此の侍の如きは經濟上から申すと全く消費専門の人である。此の人は大名の城下に何十人何百

人と揃つて宅を構へて居ります。斯様な所を稱して城下町と稱する。是が日本の都府の主なるものでありました。それで大藩には大きな城下町があるし、小藩には小さい城下町がある。それから諸大名の城下町の上にも一つ天下の城下町がある。即ち江戸には幕府の旗下が居るのみならず、各大名の參勤交代があつて大名の家族なり家臣なりが住居して居る。是等の人が消費する分量は偉いものです。それだからして此の江戸其の外の城下町に對して品物を供給する所の機關がなければならぬ。それで斯う云ふ土地には商業なり工業なりと云ふものが發達して來る。殊に此の大名の生活と云ふものは中々贅澤なものでありますから、是等の人の生活を支へるために色々の物がります。是は工業と云ふ方に入るか知らぬが、色々の技藝を持つた者が職人と云ふ者になつて其の町に住ひます。職人と云ふものは丁稚小僧から仕立てられて、さうして親方になる、お邸の御用を勤める、斯う云ふことになるので職人の養成方法と云ふものは大體丁稚制度を以て出來上つて居つた。詰り其の當時の工業教育である。勿論

昔は器械を使ふとか或は大工場組織で以て大量生産をやると云ふやうなことは無かつた。また外國からして品物を輸入すると云ふことも無かつた。でありますから大名や侍の使ふ物でも細かな物、細かな細工を要するやうな物は大抵其の城下で用を足すやうになつて居る。所謂地方的の經濟組織が出來上つて居つたので、さう遠くから持つて來ないでも用が足りるやうになつて居つた。或る都會へ行きますと云ふと今日でも町の名に皆職人の名が付いて居る。桶町であるとか、疊町であるとか、檜物町であるとか、紺屋町であるとか、鍛冶町であるとか、鑄物町であるとか、さう云ふやうな職人の名前が付いて居る。今日は其の町名には何等の意味も無くなつてしまつたのであるけれども、昔は其の町の名の付いて居る職人が割據して居つた。それであるから大名の城下には百工悉く備はると云ふので大抵の用は辨じる。併ながら徳川時代も末の方になりますと云ふと大分經濟上の交通が進んで參りまして、所謂地方的の分業即ち、一つの地方と外の地方との間の分業が追々發達して來ましたからして、或地方には特

別に得意として作り出す所の所謂國産なる物が出来て来た。讃岐は砂糖を國産とする土佐は紙を國産とすると云ふやうな工合に、或は織物を以て國産とする所もあるし、塗物を以て國産とする所もあるし、瀬戸物を以て國産とする所もあると云ふ風に色々な特別の商品を作り出す地方が出来て来まして、それから商品の交換をやるやうになりました。さうすると全國から色々な品が出来て、是がまた全國に分配されなければならぬのでありますから、其の分配の爲めに何處かに中心がなければならぬ。それは即ち大阪である。大阪は『天下の臺所』と其の當時の言葉で稱してゐる。日本中で出来た物が多くは大阪へ一遍集つて来て、大阪からまた分配される。集散の中心、集つたり散つたりする中心が大阪に出来た。故に此天下の臺所は主として『天下の城下町』たる江戸を相手としますが、其の外の地方も皆大阪からして供給を受けることになつた。大體日本人の多くは最初に申した通り自足經濟をやつて居つたのであるけれども而も尙其の一部分の物品は大阪を通して各地方から出て来る。斯う云ふことになつて

来た。そこで商賣人の數が大變に殖えて来なければならぬ。詰り生産から消費に至る橋渡をする人が出来て来なければならぬ。そこで大阪は問屋の都になつた。問屋、卸賣をする所の都になつた。大阪の問屋と云ふのは是亦其の職業別に依つて其の町内〱に割據して居ります。或は藥屋の澤山居る所もあるし、瀬戸物屋の澤山居る所もある、紙屋の澤山居る所もあると云ふやうな工合に其の品物の種類に依つて問屋の分業が出来て居ります。

第四 維新後に於ける商業

斯う云ふ譯で徳川時代から明治時代に移る時には既に中々多くの問屋商賣と云ふものが成立つて居る。それから此の間屋からして品物を買つて更に消費者の家に持つて行く所の小賣商と云ふものも、是も大變に發達して居ります。殊に江戸と云ふ所は侍が多勢居りますから、之を相手にする所の小賣商と云ふ者が可なり發達して居つた。

併しながら其當時には、此以外には商賣人と云ふものは無かつた。汽船會社がある譯ではないし、鐵道會社がある譯ではなし、銀行も極めて幼稚で、兩替位のものであつた。所が維新以後になりまして外國から新しい商賣、工業の方法を輸入することになつた。そこで色々の物が出來て來たのです。是は今日から考へると云ふと、日本人が今まで商業の上に於て餘り進んでも居らなかつたのに、よく此の進歩した所の外國の商賣、工業のやり方を、而かも短い年限の間に消化し得たものだと思つて自分ながら感心するのであります。兎に角甚だ短い期間三十年か四十年の間に、色々の外國の商賣工業のやり方と云ふものが入つて來まして、それが兎も角日本人の手で以て自由に運轉されるやうに今ではなつて來た。それでどんな者が入つて來たかと云ふと、鐵道が入つて來る。汽船が入つて來る、銀行が出來た、それからして保險會社が出來る、其の外工業方面に於て色々の工場が出來て來ます。殊に日本に原料が澤山ある所の生糸の工場や絹織物の工場が澤山出來た。それから同時に日本に原料は無いけれども木

綿工場と云ふものが非常な發達を遂げた。今日日本の紡績業と云ふものは世界の紡績國が強敵と考へて居る所の大工業になつた。それから鑛山と云ふものが發達して來た石炭を出す、銅を出す、斯う云ふやうなことも昔は餘りにやつて居らなかつた。そこで斯の如き色々の所謂大規模の營利事業は一體どう云ふ人が受持つて此處まで發達させて來たのであるかと云ふことを考へて見ますと云ふと、是は昔の商人、所謂其の時の言葉で言へば町人ですが、町人がやつて來たのではない。明治政府は頗る大膽な政策を執つて、着々外國の文明を輸入した、一方に於ては政治上に於て諸官省の仕組或は中央及地方の議會制度を輸入して來る、また陸軍海軍の組織を輸入して來る。それからして産業上に於ても或は鑛山、或は工場を自ら拵へまして、さうして西洋の工業と云ふものは斯う云ふものだ、斯う云ふ風にしてやらなくてはいかぬと云うて今日の言葉で申しますれば所謂指導をやつた。日本の從來の商人が自ら振つて是等の事業に當るだけの考は其の當時まだ無かつた。政府が獨り民間の事業に對して保護獎勵を加

へるばかりではなしに自ら先立つて之をやらなければならぬと云ふ状態であつた。是は當時の日本に取つては絶対に必要なことである。何故ならば先づ二百何十年來の鎖國制度を破つて外國の様子を見るに云ふと、非常な勢で以て國際間の競争と云ふものは行はれて居る。ウツカリして居れば國を取られてしまふ。日本は先づ第一に獨立しなければならぬ、それには陸軍が要る、海軍が要る、其の陸軍海軍を拵へたは宜いが、そこで鐵砲が要るし、軍艦も要るし、靴が要るし、服が要るし、是はどうしたら宜しいか、一々外國から輸入して居る譯には行かぬから自分で拵へた、それですからさう云ふものを政府自ら進んで製造した。それで斯う云ふ局に當る人はどう云ふ人であるかと云へば、先づ以て武士の階級から抜き出したのであります。

此の侍と云ふ階級は大體に於ては先刻申しますやうに消費専門の人達であつたけれども、併しながら昔からは又一種の商賣をして居つた。何故なれば舊時代に於て各大名の領地に出来る處の國産なる物が屢々此の大名の經營して居る處の商賣になつて

居つた。御承知の通り大阪には藏屋敷と云ふものがあつた、或は紀州の藏屋敷或は薩州の藏屋敷と云ふやうに藏屋敷と云ふものがあつた。それ／＼國産を大阪で賣る處の商賣は侍がやつて居つた。だからして稍仕組の大きい商賣と云ふことに付ては侍は全く無經驗ではなかつた。而して明治の新しい商賣、外國から輸入した大規模の營利事業は只賣買に付て機敏であると云ふことだけではいけない、寧ろ多勢の人間を取扱ひ多くの材料を取扱つて之を秩序整然と整理して行くと云ふ經營の才が必要なことである。昔の町人は市場の相場の變動に依つて機敏に進退すると云ふことに付ては侍より以上の才能を有するけれども、併しながら大きな組織を秩序よく運轉して行くと云ふことに付ては侍に及ばない。それだから侍が出て來て是等の新事業に當ると云ふことは當然のこと、どうしてもさうしなければならなかつた。そこで政府は侍階級の者をして是等の職業に従事せしむるために色々の學校を起しました。或は工部大學校と云ひ、其處では技師を養成する。或は農林學校と云ひ、其處では農業森林等の技師を養

成する。それからして大學に於ては經濟學を教へる、此處では銀行家とか或は大商業家の支配者を養成する、商業學校を拵へて此處では又貿易に従事する者を養成する是等の學校は無論誰でも入つて宜しいと云ふことにはなつて居るのであるけれども、明治の初年に學校へ入つて修業すると云ふ者は殆ど士族に限られて居つた。ですからしてさう云ふ士族出の者が實業界に流れ込んで來た譯であります。士族と云ふものは維新前には家祿を大名から頂戴して居る。何もしないで消費専門にして居ても士族の一家と云ふものは生計に困ると云ふことはない。尤も下級の者は實際困つたのでありますが、併し丸ツ切り其の収入がないと云ふことはない、代々續く世襲的の年金恩給を貰つたやうなものであつた。然るに其の世襲的の恩給を維新の時に買收されてしまつた、恩給を受ける所の權利を買收されてしまつた。どう云ふ形で買收されたかと云ふと、是から以後家祿は出さぬ、其の代り之を元金に直して、公債證書で以て一時金を賜つた。其公債證書の金高は以前の家祿に比して甚だ少いものであつた。それでは彼等

はどうしても職業を求めなければならぬ。勿論政治法律を學んで役人になると云ふ者が非常に多かつた。けれども役人だけではとても仕事が足りない。で役人以外に何かあるかと云ふと、新しく政府が獎勵しつゝある所の外國式の大事業である。一番初に彼等が其の公債證書を賣つて、或は公債を其の儘使つて元金にして經營をやり出したのは、所謂銀行であつた。國立銀行と云ふものが明治十三四年頃に百五十か六十かあつた。其の多くのものは政府から公債を貰つた者が公債を元にしてやり出したものである。其の重役は勿論雇員に至るまで大部分士族がやつたのであります。中には士族でも慾張つて居る人がありますから、銀行位ちや承知しない。何か大儲けをして見たいと云ふので其の公債を現金に替へて色々な商賣に手を出す。今まで町人のやつて居つたやうな商賣に手を出す。さうすると云ふと、所謂『士族の商法』で見事に失敗して貧乏士族が益々澤山出て來ると云ふやうなことは我々が小供の時分に聞いた話である。

さう云ふ工合にして新式の大規模な商業工業——銀行業、運送業と云ふ方面に働く所の人は主に學校から出て來た、其の學校へ一番初に入つたのは士族階級であつた。尤も此の士族と云ふものは間もなく其の階級の區域が不明瞭になつてしまひました。士族も平民も同じものになつてしまつた。總ての階級の人が學校に入つて學校を本として實業界に泳ぎ出るやうになつて來ました。斯う云ふ譯で今日の形勢を見ますと云ふと、日本の國民經濟生活の脊骨をなして居ると云ひますか、動脈をなして居ると云ひますか、其の主なる幹となり根となる所の大組織は學校で養成された人が動かして居るのであつて、是は大體成功して居るのであります。外國では商業教育と云ふものは學校でやるべきものか、或はやらないで宜いものかと云ふことが最近まで問題になつて居り、今日でも歐羅巴の先進國は商業教育に於ては案外進んで居らないので、日本は列國の中に於て餘程進んで居る方ですが、是はさう云ふ譯であるかと云ふと、歐羅巴では社會が進んで居るから學校で商賣のやり方を教へてやらなければならぬと云

ふ必要はない。全くないと云ふことはないが、今までは先づないと思つて居つたのである。近頃になつて漸くさうばかりでもいけないと云ふ風になつて來た。日本ではそんなことを云つて居られないから何でも彼でも否でも應でも學校を拵へて、其處で新知識を與へて、或は商業、或は工業と云ふ風に人を拵へて行かなければならないと云ふ状態であつた。それで歐洲では必要か必要でないかを議論をして居つて、餘り發達されなかつた商業教育は日本に於ては非常に發達して參り、また今日では必要缺くべからざる機關になつて來たのであります。それですからして今申す國民經濟生活の脊骨になり、肋骨になり動脈系統になると云ふやうな大きな仕事には學校で養成された者が入つて、是で以て機關が動きつゝある。で此方面に入ります者は、商人であり、實業家ではあるが、併し自分が獨立して營業を持つと云ふ譯ではない。月給を貰つて人の雇人になると云ふので昔で申せば役人と同じやうなもの、所謂月給取である。詰り此の月給取の階級と云ふものが、今日では昔の士族階級に變つたやうな形になつて

居る又單に變つただけではなくして非常に其の數が殖えて居ります。月給取の階級と云ふものは今後益々殖えるでせう。株式會社と云ふものは多勢の人の大小の資本を集めまして、是で大事業をやりますが、大事業をやれば自然其の大將ばかりで以て仕事をやる譯には行かない、支配人も居れば課長も居れば、工場長も居れば技師も居れば職工長も居れば労働者も居れば事務員も居ると云ふ風に、多勢の人が其の大將の下に使はれなければならぬ。それらの人は月給取ですから、此の階級は幾らでも太つて行く、是が今日商業なり工業なりの學校教育に依つて養成されつゝある所の人であります。

第五 商業學校と商業

所が先刻も申しますやうに、商賣の主なる仕事は何處にあるかと云ふと、生産者と消費者の間に橋渡をするに云ふ仕事、品物を賣買する仕事であつて、卸賣とか問屋と

か云ふのが狭い意味の商業である。其の方は一體どう云ふ風になつて居るかと申しますと云ふと、此は大分様子が違つて居る。維新以後に於て政府が商業學校を拵へました、此の商業學校は決して國內の卸賣業、小賣業に従事する者を供給しては居りませんでした。商業學校の養成する所の人間は大部分外國貿易に従事することになつてしまつた、何故さう云ふ風になつたのか、何故内外商業共に併せて人材の供給を圖らなかつたかと云ふと、それは出来なかつたからやらなかつた。やらうと思ふたけれど出来なかつた。多分やらうと思つたのでせう、内外併せて、總ての商業に人材を供給するのが商業教育と思つて居つたでせう。併し當局者は外國貿易に成功したけれど國內の商業には失敗した。どう云ふ譯で失敗したかと云ふと是には徳川時代からやり來つた所の商人があります。町人があります。是は先刻申した職人の養成法と同じ方法で養成されて居る。年期制度で、先づ十歳か其處いらの小供が丁稚小僧として商店に入る。六年か七年、其處で働く、それは子守もするし、拭掃除もするし、色々な

家事上の女中代りの仕事もしなければならぬが、同時に店番もする。小賣店なら御用聞もすれば配達もする。さう云ふことをして居る間に商賣の道を見習ふ。だからして商店の主人が雇主であると同時に又先生である。師匠である。そこで丁稚小僧が何年かの間に其の商賣の道を卒業しますと、それが今度は番頭になる。番頭になれば今までの待遇とは又違つた待遇を受ける。今までは單純なる丁稚小僧で、主人の家に住み込んで居つて家へ歸ることは一年に一二度、盆と正月の十六日に敷入をすると云ふ時だけが彼等の公休日である。月給はちつとも貰はない、只食はして貰ふ、仕着を貰ふそれから敷入の時に小使を貰ふ、斯う云ふのが彼等の受ける報酬の全部である。斯う云ふ方法で以て養成されて來たのだが、年期を終りますと云ふと、既に卒業生であつて相當役に立つ、今度は手代とか番頭とか云ふものになる。それで相當に月給を貰ふそれからして小僧の時分には羽織も着ることは出來ないし、煙草も喫ふことは出來ないといふことになつて、嚴重に規則は守られて居つたが、是は番頭手代になれば許さ

れる、それから大きな店でありますと、是がやがて主人の家を出て一家を構へれば所謂通ひ番頭になる。何時までも通ひ番頭をやつて居ると白鼠になる。主人が馬鹿であるといふ其の白鼠がお家騒動を惹起すと云ふことになる。併しさう云ふのは非常な大家の話であつて、多くは番頭手代が獨立して店を開く、其の時に所謂暖簾を分けると云ふ方法で以て獨立さして貰ふ。幾らか元金を出して貰ひ、且主人の屋號を分けて貰ふと云ふことに依つて獨立をして又一商店の主人になる是は職人が親方になるのと同じ事である。斯くの如くにして養成される所の町人なる者がありまして、是は維新後と雖も矢張り依然として勢力を持つて居る、中々學校出の洋服を着た者なんかが行つたつて、叶ひはしない、况や我々學問をしたやうな者が彼等の職業上の指導をしやうたつてとても出來るものではない。すれば必ず失敗の本です。彼等は自分自ら此の商賣の浮沈の競争場裡に立つて戦つて來て居る。小供の時分からそれを専門に教へ込まれて居るので、此の丁稚制度と云ふものは古い商業のやり方に付ては立派な教育方法であ

るので。之に對して洋服を着た人間が其の分野を侵略して行かうとしても出て来ない。それですから商業學校で以て養成した人間と云ふものは最近までさう云ふ方面には一向入つては行かなかつた。稀に入つて行つてもそれは大抵失敗した、斯ういふ次第であります。

然らば此方面の空氣は今どうなつて居るか、徳川時代のまゝであるかと申すと決してさうではない。此處に中々大きな變化が起つて來つゝある。それは何處から起つて來たかと云ふと、矢張り交通機關の發達したことが主なる原因で、從來の商業組織と云ふものが非常な勢で以て今日崩壊しつゝある。今其の從來の商業組織なるものをも少し解剖して御話して見ますが、生産者から出た品物が消費者の手に移るまでの間に、色々な人の手を経て來て居る、一つの例を採つて御話致しますが、北海道で以て小豆だとか麥とか云ふ雜穀が取れます。之を大阪に持つて來る間に何人の手を経て居るかと云ふと、先づ産地には産地の問屋がある。小樽には又小樽の問屋がある。百

姓が銘々で拵へる物は僅な物ですから。それを買集めて大きな荷物に拵へる。それから大阪に積み出す。大阪で以て荷物の荷受問屋と云ふものがある、それから卸賣に入り、それから小賣に入る。それから田舎に行けば又卸賣商があつて、その手を経なければ小賣商に行かない、それで色々な人の手を経て居るので、其の度に口錢を取られて品物の賣値段が高くなる、而も徳川時代には何人かの手を経て品物が動く云ふ仕組が一つの動すべからざる掟になつて居つた。先祖から傳つて居る所の株、即ち特權になつて居つて、官が保護を加へて居つた。ですから例へば大阪の塗物問屋と云ふものは何軒と決つて居る。それ以外に塗物問屋をやらうと云ふ人があれば、其の塗物問屋の組合、問屋組合の仲間へ入らなければならぬ。仲間へ入ると云ふことが中々むづかしい、或は塗物屋の子でなければならぬとか、或は塗物屋の丁稚小僧をしてやり上げた人間でなければ、さうして相當の資産を持つて居なければやれないとか、色々な制限があつて勝手に塗物屋をやると云ふ譯に行かない。さう云ふ風になつて居り

ますから、商人の位置と云ふものは親の代、祖父の代から決つたやり方を守つてさへ居れば、潰れると云ふことはなかつた。それですから昔の商人が家を潰すのは大抵は使ひ過ぎをして潰すので相場をして潰すと云ふやうなことはなかつた。尤も株式と云ふやうなものも其の時はなかつた。有り來たりの方法を探つて商賣をして居れば自分の家柄は相當の暮しをして行くと云ふことは自然に出来るやうになつて居る。然るに是が維新の時に廢されてしまつた。總て此の特權を廢すると云ふ趣意からして此の商賣の株と云ふものは、皆廢した競争が自由になつた。そこで商賣社會に大分動搖が起りました。今まで素寒貧であつた者が急に富をなすと云ふやうな者も大分出て來た。それらの人の中からして今日非常な大金持が出て居るです。先刻私は新事業は大抵士族の方から出て行つたと云ふたけれども、是にはいくらか例外があります。魚屋をして居つた人が土木工事をなし、陸軍に納め物をなし、遂に男爵になつた例もあるし、又小さな鯉節屋が日本一の銀行家になつて暗殺されたと云ふやうなこともある。是は

特權を廢してしまつて誰でも自由競争で偉くなると云ふために生じた所の一大動搖の片鱗であります。

第六 交通機關と商業

それから其の次に起つて來た動搖は今の交通機關の關係からして複雑な取引の仕組を簡単に改めたことと云ふことである。此事は今日の商人が或はまだ本統に理解して居ない所ぢやないかと思ひますが、我々は今日商賣と云ふものを金儲の道として見るよりも、寧ろ社會に必要な一つの機關として考へるやうになつて來て居る。例へば近頃は世帯の會と云ふやうなものが出來て、農商務省で世話をやつて居るさうですが、どの位の効果があるかどうかと云ふことは別問題として、兎に角其の位のことを注意して來るやうになつた。世帯の會の趣意はもつと銘々が節約をして、もつと臺所を改めると云ふのでせうが、今日の臺所は只一家の中だけの臺所では濟まない。臺所の中に

入れる物は誰が入れるかと云ふと、小賣商人が入れる、小賣商人へは卸賣商人から入る。だからして此の商人の手を経て銘々の臺所に入る系統が簡單にならなければ家庭經濟と云ふことは出来ない。良妻賢母と云ふ者は家に温順しくして居れば宜いと云ふのは大いなる間違で良妻賢母は其の臺所に入つて来る源を突止めなければならぬのです。斯う云ふやうになつて来て一國の商賣を臺所の延長と云ふやうに考へて来て居るそれは何うしてもそうならなければならぬ。何故なれば一番初め商賣の無い時分にはどうして一家の需要を満たしたかと云ふと、自分で黃瓜を作つたり大根を作つたり米は勿論、織物も皆自分の家で拵へた。今日では嫁入の資格は裁縫が出来ると云ふこと位しか聞かぬけれども、昔は機織が出来ると云ふことを聞いた。機織が出来ると云ふことはどうしても女の持つて居なければならぬ資格であつた。一家自足の經濟を立てるには是が必要であつた。今日は分業の非常に發達した世の中になつた爲め臺所の仕事は段々と減らされて行つて、色々な商賣なり工業なり農業なりになつて來

た。それですからして之をもう一遍考へ直して見なければならぬ。此のやうに分業になつて専門家の作り出した物を集めて、或は又之を分割して、さうして銘々の臺所に入らせるためには如何なる方法を以て一番且いとするか。是は國民經濟の經營なのである。一家經濟が今度は擴張されて國民經濟にならなければならぬ。ですからして我々は此の商賣の方法、現在の商賣の方法と云ふものが、果して此の國民經濟の經營上から見て能率の高い仕組になつて居るや否やと云ふことを考ふべき時期に到着した是が重要な意味を持つ理由は此の何處にあるかと云ふと、此の頃の交通機關の發達に伴うて變つて來なければならぬ所の商業組織を從來の商人なるものが、町人なるものが巧く解決して行かないから問題になつたことと思ふ。中々町人と云ふ者は偉い階級であつて、從來學校を卒業して月給取になつた人間なんかが入つて行つたつて、中中勝てなかつたと云ふことを先刻も申しましたが、今日は其處に問題が生じて來た今の卸賣商、小賣商の大部分は専門の職業教育を學校で受けた人間ぢやない。普通教

育義務教育だけをやつてそれから小僧になつて養成されて来た所の人間が之を占めて居るのでありますが、是等の人がかどうかして此の新しい外界の形勢に對應して經營法を改めて行かければならぬ時勢になつて来て居る。其の運動と云ふものは勿論既に始つて居るので、もう十年二十年前から大阪の間屋が其の前にある所の間屋を出し抜いて産地の問屋と取引をするとか、或は製造元と直接に取引をするとか、それから又之を小賣商に賣るに付ても小賣商と自分の間にある所の中間商人を省略していきなり仕入元と接觸を保つと云ふやうな運動が既に起りつゝあつた。と云ふのは交通が進んで來ますと云ふと、遠方の産地なり或は消費地なりの事情と云ふものは前よりも簡単に之を見ることが出来るやうになつて行く、座つて居つて他地方の商賣の様子を見ることは出来るやうになつた。郵便もあれば電信もあれば新聞もある、尙其の上に必要があるとすれば、容易に商品を仕入元から取寄せることが出来る。昔は鐵道がない汽船もない。商賣人は自分の店に列べて居る所の品物を容易に取寄せることが出来な

いからどうしても店なり藏なりに澤山の品物を置いて置かなければならぬ。所が店に列んで居るものは誰の用もなさない。寝て居る間は誰の用もなさない、さうして利子を食べ營業上から言ふと甚だ不經濟な營業法であります。さう云ふものを出来るだけ縮めなければならぬのだが、今の交通の發達に依つて藏へ仕舞つて置いたり店に飾つて置いたりする品物を商賣の分量に比べて少くして行くことが出来るやうな時勢になつた。勿論此の點は商賣人が着眼して段々やりつゝある所です。それで今日まで大分商賣の筋道と云ふものは簡單化されて来て居るが、尙それでは中々足りないもので其の競争が現に行はれつゝあるのみならず、斯う云ふ工合になつて來ますと云ふと、商人の教育と云ふことも亦單純なる丁稚教育では不足になつて來ます。そこで低い程度の商業教育と云ふものが非常に必要になつて來た。それですからして昔は町家で以て學校へ息子が行きたいと云ふからやると云ふと皆月給取になつてしまつて家の商賣を見て呉れないからあれでは困ると云ふことであつた。所が今頃はさう云ふ家でも、商

人も商賣社會の大勢を知らなければならぬと云ふので學校へやるやうになつた。學校へ行つた者も昔のやうに俺は學校の卒業生だと云ふので濟して居てはとても追つかぬから、矢張り前垂を掛けて店の仕事を平氣でやるやうになつた。

第七 商人の養成

そこで今後の問題は此の普通の小賣商卸賣商と云ふやうな方面に行く所の人間が如何にして養成されるかと云ふ所にあるだらうと思ふのであります。私も是を特別に實際に付て調査したのではないのでありますけれども、只今まで各方面から聞く所に依りますと云ふと、段々に單純なる小僧教育の缺點が認められるやうになつた、小僧教育の外に幾らかの職業教育を授けなければならぬと云ふことになつたやうに思ふのであります。そこで之を學齡兒童なり、又其の方面の教育に従事する人の側から見ますと云ふと、普通の小學校は勿論職業教育をする餘地は極めて乏しいのであるから、其

の上にごんな方法で以てやるか。或は小學校の年限延長、若くは高等小學校の普及と云ふことに依つて其の方面に必要な知識を授けて行つたものか、或は夜學の方法に依つて（補習教育と云ふものは必しも夜學に限らぬかも知れませぬが、商業の補習教育と云ふものは大部分夜學になるだらうと思ふ）晝間商店小僧をしつゝ夜間に教室の教育を授けると云ふことにしたものか。此點を大に考へなければならぬ。勿論何れは兩方をやらなければならぬ、年限も延長されなければならぬし、其の上に夜學もしなければならぬのであります。要するに昔からの丁稚教育と云ふのは中々有効なものであつて、決して馬鹿にすべきものでないのでありますけれども、併しながら如何にも人間の眼界を狭くする。自分の従事して居る商賣、或は自分の従事して居る店の中だけが見えて其以外が見えないと云ふ缺點がある。それですからして學校でやる仕事は其の外部の形勢がどうなつて居るかを教へるのである。殊に先刻申しました通り我々は總てのことを社會的に見て行くことになつて來て、商賣と云ふものも臺所の延長、

國民經濟の一部として見るやうになつて來て居るのであるから、其の立場を商賣に従事する者は必ず理解しなければならぬと思ふ。斯う云ふことは、どうしても店の中に閉ぢ籠つて居ては分らない。今日小賣商の中の新知識とか何とか云ふやうな心持で居る人も、やれ窓飾をどう云ふ風にしたら宜いとか、或は廣告はどうやるとか、或はお客の待遇法がどうか云ふことに氣を取られ其の方面に於ては中々偉いので、指導する所ではない。こつちが行つて指導して貰はなければならぬ。只外界の廣い世界を見さすことの練習は今の幼稚教育の授けることの出来ない方面である。之を如何にしてするかと云ふことが商業教育の問題になつて來やしないか、大事業に向ふ月給取、勤人を養成するに於ては日本の商業教育が今日までに相當成績を擧げて來ましたけれども、昔ながらの町人の卸賣商、小賣商の仕事と云ふことに於ては、どれだけの功を奏することが出来るか、之に付ては自ら實際的方法が講せられる筈だと我々は考へて居るのであります。

何分にも職業指導と云ふことが私には新しい問題であり、學校の先生方なり或は町村の理事者なりが一體どれだけの職業指導が出来るかと云ふことを私は疑つて居る。御互に我々役人或は學校の先生などと云つたやうな者は實社會の事には疎いものだからして、此の疎い人間にどうして職業の指導が出来るか、それはしくぢるに決つてやしないかと云ふ疑も實は持つて居る。併しながらそれでは全く出来ないものかと云ふと先刻申したやうな譯で幼稚教育のどうしても與へることの出来ない或物を矢張り我々は持つて居る。其の點からして進んで行くならば日本の商業界の發達に對して一つの強い刺激を與へることが出来るものであると、斯う考へるのであります。甚だ散漫な話でありましたが、是で終ります。

農學博士 佐藤 寛次 述

第五篇 近代に於ける農業經營の範圍 擴張の趨勢に就て

第一 農業の範圍

皆様のお手許に農業の範圍に關し私の書きました圖を差上げて置いた筈であります
が、吾々が農業と申しますといふと、餘りに普通のことでもありますので、ごういふ
ことまで含めて謂うて居るのかに就きまして、極めてぼんやりした考を持つて居るの
が常であるのであります。で私は農業といふと何時でもこの圖に書いてありますや
うなことを内容とする所のものを指したいと思ふのであります。即ちこの繪を一寸説
明して見ますといふと、第一吾々は土地の耕作を致しまして、いろ／＼の作物の栽

培を行ふ、即ち一といふ字の書いてあります所がそれを示す、これに對して耕種といふ名稱を與へるのであります。

作物の栽培の結果は一體どうなるか一つは右の方に参りまして(二)に進む。この二は養畜であります、家畜を養ふことでもあります。作物の或る物は家畜の食物になる、例へば桑の葉の如き、或は稻藁の如きものである世界いづれの國の農業を見ましても耕種と養畜の二者より成るのが農業であります。然し日本の農業は耕種が主であつて養畜の如きは第二次的のものになつて居ます。兎に角此の耕種と養畜とは世界を通じて農業の内容を爲すもので、昔と今と大した區別が無い、然るに或地方に於ては耕種の結果たる植産部に工作を加へることが行はれますが、それは繪の三であります。此の(三)の材料には養畜の生産物を材料として工作を加へることもあります。例へば牛肉の罐詰を作るとか、牛乳を材料としてバターを作るが如きことである。これに對して私は農産製造といふ名を與へる。この農産製造といふものが作物の栽培、家畜の飼養

法に附隨するのであります。但し單に農産製造と申しますと種々の意味に解釋せらるゝ虞れがあるから、私は農業者自ら生産したる植産物又は畜産物に工作を施すことを指すといふことに此の意味を限定して居るのであります。尤も農産製造をなすに當つて原料の不足を補充するとか、又は他の補助材料を製造中使用したとしても、前述の定義に影響のないものとして差支がないと思ふ。

そこで農業は耕種養畜及農産製造より成るといふことが明瞭であります、更に經濟上の進歩發達に伴つて以上三者だけに止らずして其の範圍を擴げて耕種の結果物即ち植産物を他に販賣することとなり、養畜の結果たる畜産物も販賣することとなり農家自ら販賣の衝に當るのであります、農産製造品の販賣に付きても亦同様である之と同時に他の方面に對して其の活動の範圍を擴張して肥料種子の如き料の耕種用原料や、枯草の如き養畜の飼料や農産製造の補助材料の購入に及ぶのである。且此の際には他人の持つて來た物を買ふといふのでなくて、農家の努力に依つてそこまで手を伸

すことになるのであります。之を挿書に付いて見ると、右の方から飼料が養畜に入り左の方からは補助材料が農産製造に入り、真の上からは肥料が下に向つて真直に土地に入つて居る此處には唯肥料とのみありますが、種子もあります其の他の物もあります。農業の範圍は以上の如きものに止まるでありませうか、否更に販賣の内容に立ち入りて荷造り、貯藏輸送の如き、又他の共同して市場を設けることあるべく、此等各種の業務を行ひ、販賣と購買の事業を適當に行ふ爲には信用市場と金融關係を結ぶことも必要となるのであります。此の如く農業の範圍が擴張せられて來ると農業とは如何なることを指すかが略明瞭にならうと思ふ。即ち耕種、養畜、及び農産製造、並にこれに伴つて起る所の販賣、購買、金融などの行爲の總體より成るものが、即ち今日完全なる形の農業であるのである。

第二 古今農業者の差異

又今日の農業者と昔の農業者とを較べますと、前者は漸次複雑を加へつゝあるのであります昔は農業の仕方は簡單で殊に日本の農業に於きましては、農業の規模も小さい所へ仕事が簡單でありますから、農業者自ら爲し得るだけの農業を實際に行つて居たから雇人を使用するの必要も至つて少かつたのであります。所が先にお話ししましたやうに、農業の規模が段々く擴張して參りましたして複雑を來しますといふと、勢ひ雇人の力に俟つ所も多くなつて參ります。又他の方面から考へて見ますと、農業者それ自らの社會的生活の方面に於きまして多くの時間を割かなければならないこともあるのである、その方面に於きまして自ら働くべき時間を縮少した結果と致しまして、これを補充する爲に雇人の力に依らなければならぬといふ所も多くなりつゝある所が雇人に對して支拂ふ所の金額は年を重ねるに従つて段々多くなる、單位の數に置きまして多くなりすし、合計に於ても益々多くなりつゝある。これを何とかして救済するの必要があります、其の方法の一は言ふまでもなく機械を使用すること

であります。即ち農業改革の方便として機械を活用する爲に考を用ひることになりつゝある譯であります。

所が日本の農業は御承知の通りに非常に小さいのであります。最近の調査に依りますると一町歩未滿を耕作する農業者は全體の農業者の六割九分七厘四毛といふことになつて居るのである。これは最近の調査を言ふに過ぎないけれども、歐羅巴に於きまして過小農——小農よりも小さく一人前でないといふ過小農——の耕作反別は大體三町歩未滿であります。その三町歩未滿の耕作を日本に於て見ると、全農家戸數の九割六歩六厘二毛になるのである。若し單に此の標準から申せば日本の農業は總て小農であると言ふことが出来るかも知れない。その上に日本の農業の小さいことを證明する材料は之を小作關係に求むることが出来ます。小作人の數は幾らあるかと申しますると、全農業者の二割八歩四厘一毛であります。それから小作兼自作と名け、若くは自作兼小作と稱すべきものは幾らあるかと申しますると、四割九厘一毛あります。小作

人は自分の土地を持つて居ないのであります。農業の規模耕作反別の大小から申しますれば別段異なつた點はありませぬけれども、その農業經營といふ根據から考へて參りますと、遙かに經濟上の基礎は薄弱なものになつて來るのであります。此處に於きましてこれ等の小さい農家が自分の手で農業の範圍の擴張を計畫致します、先にお話し致しました所の販賣の衝に當るとか、或は材料の購入に當るとか、機械を使用するとか、或は金融の衝に當るとかいふことを考へて見れば、果して目的通りに行くものであるかどうか、その方面に就て考へて見ますと、單純にこの經濟上の根據が極めて薄弱である爲めに、折角考へました所の若くは世界の上から見ますれば農業の範圍は之を擴張して居るにも拘はらず、日本の農家と致しましては仲々思ふ通りに事業の範圍を擴張することは、實際の上に於て容易なことではない、殊に各自各々其の擴張を實行することは甚だ難かしいのであります。

此の如き事情の下に於て事業の擴張を行ふべきか、之には二つの道がある、言ふま

でもなく一つは農業の経済の規模を自ら大きくするといふことであります、それからもう一つは自ら規模を大にするといふことが出来れば結構であるけれども、出来ない場合に於きましては目的を同じうする所の人々と協働するといふことであります。この二つの道は即ち先にお話した困難から免れる所の道でなければならぬ。所で面積を大にして農業の規模を擴張するといふことはどうであるか、この方面に就て日本の農業を調べて見ますといふと、幾分か耕作反別を擴張するの傾きを有して居ります殊に小作人間に於きます所の耕作反別擴張運動といふものは最近に於きまして著しく進歩しつゝあるやうに見える。就中秋田縣とか山形縣の一部とか新潟縣の一部であるとか、この東北地方の小作人の間に於きましては耕作反別擴張運動は著しくなりつゝあるのであります。併し擴張運動は極めて微々たる擴張運動でありまして、決して大なるものではない。どうやら大きくなりつゝあるといふことに止まるのであります政府の耕地擴張奨励も大した効果はありませぬ。

地方に依つては最近に於て地主と小作人の問題が仲々やかましくなつて居ることは諸君の己に御承知のことであると思ふ、さうして最もやかましい地方は何處であると申しますと、それは岐阜縣と愛知縣であると言つて宜からうと思ふ、此等の地方に於きましては、小作は土地を捨て、農業を止めてしまふのでありますから、極端の場合に於きましては地主自ら耕作することになりまして、その耕作反別を大きくするといふやうな所もあります。一人で五十町歩の耕作をやらうといふ計畫をして居る所もあり三十町歩計畫の人もある。又自分自らで此の種の經營が出来なければ近所の人々と一緒になつて、それ等の耕作反別を増加しようと企て、居る人もあるのであります併ながらそれ等の擴張運動は結局例外に止まるのであります。さうして小作問題を論ずる多くの人の言ふ所に依ると、日本の小作人の生活状態を改善し、彼等に文明的生活を興へようとするならば先づ小作料を安くしなければならぬといふ、併しそれ等の論者の言ふが如くに、小作料を減ずるは勿論之が全免を圖り恰も小作人をして自作の

境地に立たしめたとしても果して文明的生活を彼等に與へることは出来るであらうか
出来ないでならうかと斯う考へて見ますと、少し怪しい。自作人すら今日は引合はか
い。日本の農業に於ては自作人すら文明生活は出来ない。だから小作人が小作を止め
てしまつて、さうして自ら自作農になつたからと言つて、立派な生活を營むに足るべ
き必要なる収入を擧げることが出来ない。耕地擴張運動といふことを何處までも擴張
致しまして、人並に生活出来る位収入を擧げる所の農業を營みたいと斯ういふことにな
りまするといふとどうしても一農家五町歩ぐらゐの耕作をやらなければならぬ、自
作農として五町歩ぐらゐの耕作をしなければならぬ。さて全農家をして五町歩だけの耕
作をしなければならぬとしたならば、日本に於ては如何なる結果となるであらうか、
日本の農家の全體の数は大凡五百五十萬戸、一農家の耕作反別は一町一反歩少し
ありますが、耕作反別を五町歩と致しますと農家の五分の四は農家を止めてしまはな
ければならないことになる、何のことも無い、問題は極めて單純に云ひますと假定で

ありますが、農家が何れも一人前の生活を何處までもやつて行きたい。殊に文明的生
活をやり度いとなりますと、兎に角二千萬人の人間が農業以外に行くにあらざれば、
農家としては文明的の生活をすることは困難なりといふやうに見えます。勿論これ
は文明人らしい生活といふ點から出立しての話であります。其のらしい生活のスタン
ダードが問題であります、假に右の様にも考へることが出来るのであります、こう
なりますと、次の問題は二千萬人といふ多數者にどうして生活の道を與へることが出
来るかであります。工業とか商業とか其の他いろ／＼な仕事があるが、今急に二千萬
人の人間に對しまして職業を與へるといふことになつたならば、これは大騒ぎしなけ
ればならない、これだけは言ふを俟たないことであります。

第三 農業の協働方法

そこで現在の日本の農業と致しましては極端な例を擧げたのでありますけれども

耕地面積の擴張運動といふものは容易な問題ではない。それと同時に農村の内部に醜酔しつゝある所の地主小作の問題なども中々容易な問題でないといふことが分る。そこで第一策即ち耕作面積の増加といふ問題は程度問題で、どうやら大きくしやうと、努力することは言ふまでもなく必要ではあります。が他の方に標準を設けて、その標準生活をするに足るだけの農業を営むといふことを土臺として計算を致しますと、偉い問題が此處に起つて來るのでありますから、そこで此の方法を徹底的に行ふことは、現在の場合不可能なりと私は考ふるのであります。さうすると次の問題は、さうしても斯ういふことになつて來る、現在の状態に於て収入の不足は辛抱して、さうして業を失ふといふ危険を出來るだけ少くして、さうして將來に對しまする生活の根據を幾分でも安全にする道はないか、といふことであります。此の點になると第二の手段に依らなければならぬ、即ち協働に依つてその働きを擴張するより外に方法はないと思ふ。協働の方法はいろいろある、法律に準據するか準據しないかを土臺として考へると自

由の協働、或は任意的の協働と、法律的の協働法定協働、などいふことが出來やうと思ふ、例へば近頃各地方に行はれて居ります所の農事小組合や養蠶組合の如きものは即ち任意的の組合であります。この任意組合の事業を見ますと色々な之を分けることが出来る、例へば共同苗代の經營種蠶共同、飼育共同乾繭組合、蠶具の消毒組合、大農具使用の協働耕作組合及、脱穀組合、或は糶摺組合、揚水組合運搬車共同使用組合、病虫害防除組合開墾器械の使用組合など實にいろいろの組合があるのであります。これ等の組合に於てどれだけの人が協働して居るかを申しますと、大體に於きまして七人であつても八人であつても十人であつても宜い、何十人なくてはならぬ、さういふことは無い、便宜の時期に於きまして氣の合つた所の人が寄り集つて、さうしていろいろの目的を達するが爲に唯協働して仕事をして行くといふだけのことであるのであります。是は獨り日本に存在するばかりでなくして、戰爭中に於きまする亞米利加の各農村などに於きましては可成り廣く行はれました所の米國人の活動の一つであり

まして、此處に（寫眞を示して）小さな子供等がやつて居る仕事の一部を皆様に御覽に入れて見たいと思ふ、それは少年少女俱樂部といふ仕事であります。この少年俱樂部に就ては皆様は御承知の人も勿論あらうと思ひますが、一定の計畫を立てまして、さうしてその計畫を實行するが爲にリーダー即ち指導者がある。その人は俸給を取る人もありますし、無給で働く所の人もあるが、その人が監督を致しまして、小さな子供に農業に盡力せしめて、農産物を多く收穫して世界の大戰争に對して幾分かの手傳をしたといふ意氣を示さうと斯ういふ譯である、玉蜀黍の生産高を餘計に上げやうと努力する玉蜀黍俱樂部もあれば養象クラブもある。更に少女に對しては料理クラブ裁縫クラブ、洗濯俱樂部其の他いろいろのものを設け指導者があつて、農産物の生産高を多くし食物の供給を増加し歐羅巴の大戰争をして亞米利加側に於て勝利を占めやうと努むると同時に各家庭にあつては合理的生活を爲さしめやうといふ努力である。而も此等少年俱樂部、少女俱樂部の發達その指導者の教養に就いては、華盛頓政府と各

州政府と及町村内に於ける此の小さな團體との間に聯絡を附けまして其の發達に努力したから、著しき効果がなかつた様に思はるゝのであります。

第四 農業範圍の擴張と機械の使用

農業器械の使用は近頃に於て著しく増加したことは皆様の御承知の通りである、殊に日本の事情に於きましては最近賃銀が大變高くなつて参りました結果と致しまして段々器械を多く使ふ様になり、又段々世間の人々が之に對して注意をする様になつて來たのであります。或る人の如きは今更の如くに器械の効果を吹聴致しまして、日本に於ける所の農業上の革命を實際に行ふ爲には農業上の器械を十分に利用するといふにある、農業器械の十分なる利用に依つて、日本の農業上の一切の革命が成立つものであるといふが如き論をする人もあるのであります、日本の農業は餘り變化の無い農業であります。農業が始つてから以來今日まで其のやり方に於きまして殆ど大なる變化

が無いというて宜からうと思ふ、日本の農業史の研究をしますと、甚だ興味が少い何故少いかといふと餘り變化が無いからであります。歐羅巴の農業英吉利の農業などのことに就て調べて見ると、かなり大なる變化がある農業上の革命は何時來たかと申しますと、多くの場合に於きまして器械の使用の度合が多くなつたといふことに依るものが多い、さういふ點から考へて或る人は斯う言ふのであります。日本の農業は今日漸く農業器械を使用することになつたのである。でこの使用する方面に於て十分に機械を活用することであつたならば、今日のこの労働者の不足からして起る所の困難から免れることが出来ると思ふやうなことを頻りと言ふのであります。

先頃或る小學校長が長い校長生活から限隠致しまして近頃農業者になつた。その人が私の家に来て言ふにはどうも農業の様子を見て居ると、何時まで経つても土を掘るばかりで文明の進歩に及びもつかぬ。何とかして近頃發明せられたトラクターを使ひたいものだ。トラクターを使つたならばもう少し簡単に土が掘れて作物の收穫高を多

くし、無駄に賃銀を餘計拂ふことから免れることが出来やうと思ふ。これが出来ぬならば日本の農業者は逆も旨く行けさうも無いではないかといふやうな意味で、頻りに私に對して質問をしたのであります。私はその人に向つて二三の注意をしたことがある、ごういふ注意をしたかと申しますと、今日のこの資本的經濟若くは物質的文明の進歩の原因を考へて見れば、成程貴君の言ふ通りに器械の發明と其の使用とが根本であつたやうに思はれる。それは決して自分は否定しない。殊に工業界の驚くべき所の發展は言ふまでもなく、器械の使用に依つたのである、農業上に於ても器械を用ひることの不可能といふ譯はない。併ながら農業に於ては工業に於けるが如くに、器械を利用することが出来るか出来ないか一つお話をしてみたいと思ふ、即ち一つは農業の終局の目的はごういふことであるかと申しますと、一定面積の土地の生産高を増加するにある。一定面積の生産高を増大するにある、生産高を増大するには、一定の土地に對して出来るだけ多くの肥料を使ひ多くの人手を掛けなければならぬ、で多

くの肥料を掛け多くの人手を使ふといふことにするには、日光とか、風雨とか温度とかいふが如き天然的要素を最も有効に利用することが必要である。さうして天然物たる所の作物や家畜をしてその持つて居る所の能力を充分發揮せしめやうと助力するにるのである、農業上の目的は即ちそこにあるに過ぎない。この中で天然的要素といふものは人間の力で以て或る部分までは左右することは出来る、日光とか温度とか、斯ういふものは或る程度までは吾々の力を以て(左右)することは出来る。併ながら作物及び家畜の能力は、到底如何ともすることは出来ぬ、唯、成長期間を短縮すること例へば、従来一ケ年半を以て一人前に成長した一年まで短縮するとか、四ヶ月掛つて收穫期に達した作物を、三ヶ月半に於て收穫し得る様に短縮することは出来るかも知れない。然しどこまでも作物や家畜の成育發育を、吾々は助けることは出来るけれども、それ以上は中々うまく行くものではない。况や簡単に機械を以て成長を促進することは出来ない、寧ろ作物や家畜の個體々々に就て、手入を十分にやつて。さうして

そのものの成長を進め、發育を助けて行くと云ふやうな事より外に方法はない、これは逆も機械を以て出来る事ではない。

農業の本體は動植物の發育に助力をする、人間がこれに對して助力をすると云ふだけの事であり、さうしてこの動植物の發育と云ふことは一ツの生物體として段々に製品まで發育することであるのである、一生物、生きた物として一ツの出来上つた品物まで完成する所の道を経過せしめて行くのが農業であるのである。工業になりますると云ふとこれは部分の集合結合、さう云ふものに依つて製品が出来上り、製造品は出来上る、農業に於ては初めから出来上つたものを其の生物の力と以て増大することであるが、工業の方に於ては小さい部分と云ふものを集め、それを結合して、さうしてこれを製造品にするのである、此の小さい部分を集合し、集合し又は分割すると云ふことは分業を利用したる所以である、分業を行ふて利益ある所以は則ち機械を使用することの出来る理由であるのである。オートマチック、マシン即ち自動機械と云

ふものが近頃非常に發達致しまして、色々工場内に於きまして使用せられます。例へば螺旋類の如きものさへ一ツの機械に依つて完全に出來上るのでありまして、必ずしも機械は簡単な仕事をのみなすものではありませんが、それに致しましても動物を造り上ぐるとか作物を造り上ぐるとか、それ等が發育して段々製造品になると云ふことは趣の大に違ふものであることは言ふ迄もない事であります。

さう云ふ關係から致しまして農業に於きましては機械を用ひましても、動植物の成長の期間を勝手に短かくすることは勿論出來ない、生産の速度を進めて行くことは出來ない、或は生産品の本質を機械に依つて良くして行くことも出來ない。工業の如くに生産の始めから終まで人工的であると云ふことに比べましては、農業に於きまして天然的であると見なければならぬのであります。

斯う考へて來ますると農業方面に於ては機械の利用は困難となつて參ります。然しながら全然使用の出來ないことはない、土地を耕耘するとか、肥料を施すとか草を刈

るとか水を灌げるとか病虫害の防除の爲めに藥品を撒布するとか、或は畜舎内に於て飼料の運搬をするとか、糞尿の排除をするとか、斯う云ふやうな作業、即ち農産物を作り上ぐる事から申しますれば直接の仕事でなくて、間接の仕事、主なる仕事でなくて補助的の仕事に對して機械を使用すると云ふことは、これは出來る事でありまして、是は藥液を掛けて居るのであります（蒸氣ポンプ式を以て液を撒布しつゝある寫眞を示す）こちらの方は植付の便宜を圖る機械であります（寫眞を示す）其の他收穫や、收穫物の貯藏、それから搾乳機などもあります、搾乳は人間の手でなければ出來ぬと思つて居つたのでありますけれども、近頃は極く簡単に機械を以て搾ることになつて居るのであります。此の如く收穫とか搾乳の如き生産の最後を整理する場合、即ち調製には利用する機械がある、それから生産物を運搬するやうな場合に於きましても勿論機械を使用することが出來るのであります。即ちさう云ふ方面は農業の工業的方面でありますから言ふまでもなく、工業的の機械を利用することは出來るのであります。

併ながら此等機械を利用すると云ふ時を考へて戴き度い、一事業年度を通じまして利用の出来るものでない、季節的である、即ち機械を利用することの出来るのは、生産の全徑路を通じまして、連続的に連日、又は連時間これを爲し得べきものではない、工業に於ては連続的に或時間を爲すことが出来るのであります。此處へ持つて來ました寫眞はこれは例の自動車を製造するフォード會社であります、フォード會社へ私の參りましたのは千九百十九年の九月十一日であつたのであります、その時分に於きましての労働者の總數は五萬六千人、一日の自動車製造高は二千臺でありました。此處に寫眞は二ツありますが、此の工場は丁度蠶蛾が卵を生むやうに自動車を生むのです、自動車の材料は段々集められて動いて行く間に於て完成せられて、さうして外へ出る、その完成した所のものを検査して、合格したものは賣り出されるのであります、それが一日兎に角二千臺づゝ出来るのであります。だから自動車といふ一ツの製品を製造する爲めに、五萬六千人の人間が局部々々に於て働いて居つて、さうしてそれを

完成するのが工業である。併し農業に於ては季節があつて、さうは行かない、耕作をする時は耕作しか出来ない、收穫をする時には幾ら大きな收穫機——繪を御覽に入れただのでありますが、多分馬が二三十頭附いて居ると思ひますが、之を使用し得たとしても之を毎々使用する譯には參らぬ、或季節に限つてこれを使用し得るのであります、此の如くどうしても季節的と云ふことを忘れてはならぬ。

此の如く機械の利用が出来ても、或一定の時に限ると云ふことになりますと、その時以外は休まなければならぬ、尤も休まない方法もあります。移動させる、機械を移動せしむるのであります。例へば臺灣に於て收穫機を使用し始め、季節に従つて段々内地へ持つて來て北海道に及ぶと云ふが如くに、季節に連結しまして、機械を南から北までには北より南に持つて行くと云ふ遣り方は不可能ではない、現に私は六月の終りに米國のルイジアナ州のニュー、オルレアンスから出まして、九月の終りにノースタコダの州境まで北の方へ行きましたが、その間に毎日麥刈を見ることが出来たので

あります、即ち工業に於ける所のその作業と同じやうな仕事を移動に依りて連続的に實行し得る譯であります。けれどもこれは理論であつて普通の場合にはさう行かないのであります、然らば個人に於て使用することが出来ないとして、協同で以て仕事をしたらどうであるか、隣りの人と一緒にしやう、向の人も一緒にやらう、斯うしたらどうかと申しますと、今度は勢ひ自分の家だけに機械を据付けて仕事をするばかりでなく、向へ持つて行かなければならぬ、向の土地まで持つて行くとすれば矢張り機械を移動せしめなければならぬ、どうしても移動と云ふことが必要になつて参ります例へば此處にありますのは七十五馬力の、トラクターであります。開墾トラクターであります、これは墨西哥の八千英町の土地を今開墾して居るのであります、開墾して居るのだから移動することが當然になりますけれども、兎に角斯ういふ機械を使用すると云ふには自分の家にチャンと据付けるのではない、機械そのものが動かなければならぬ、容積に致しましても移動的機械と云ふものは言ふまでもなく大なる機械

ではない、移動が出来るのでありますから大きな機械たることは出来ない、大きな機械でないのでありますからその能率と云ふものは必ずしも大きいと云ふことは出来ない殊に大工業場の利益と農業上の上から見て擧ぐることは、斯ういふ場合に於きましては甚だ困難と云はなければならぬのであります。

此處にありますのは(寫眞を示めす)フロリダ州の蜜柑栽培業者が集りまして造つて居ります所の蜜柑荷造場であります。こちらの方にありますのは(寫眞を示めす)蜜柑は御知の通りに運送中に腐敗もしますから消毒をする爲めに薬品を以て洗ふ、さうして運搬及、貯藏中の危険を少なくしなければならぬ、併し一々蜜柑を洗つて居つてはやり切れない、機械を以て洗つて、洗つたものをその機械で以て拭き取つて、大小を今機械を以て撰り分けその選り分けたものを大小に應じて荷造りをして居るのであります。可なり大きいものであります、所でこれは年中働くことは出来ない、働かない、一年中或部分しか働けない、さう云ふやうになつて参りますから、又その機械

と云ふものを休ませなければならぬと云ふ缺點があるのであります。

それからもう一つの問題は機械の利用にはそれに適合した事業の大きさを保つことが必要である、所が事業の規模の大小に應じて適當の機械を据付くことは、農業に於ては困難であります、工業に於ては機械の速度に従つて製造高が決定するのであります、農業に於ては忙しい時がある、其の忙しい時には雇人を雇入れねばならぬ、雇人の賃金は高い、高いが故に機械を使ふ、かく忙しい時には機械を使用して労働者を節約して儲かつたやうに考へるのであります、暇の時にはどうしたら宜いのか、暇な時に機械を使ふといふと農家自ら身體を置く場所を考へなければならぬではないか、暇の時に機械を利用することが出来なければ、機械を休ませるが、自分が休むか、どちらかである。機械を活動せしむるには、自分は何處に於てその節約した時間を活用するにあらざれば、機械を買つただけを利用することは出来ない、斯う云ふことになつて來

る、近頃のやうに賃金高の問題のある時、之を調和する爲めに機械を用ふると人間が剩つて困るといふ問題が起つて來る。丁度人間の足りない所だけをするやうな機械では、機械として効能が薄い、機械として効能の高いものを持つて來ると、今度は人間を追出さなければならぬ、斯う云ふことになりました。中々むづかしい、問題をそこに惹起して來るのであります。斯の如くに機械の使用は、日本の農業に於て必ずしも出來ないのであるが以上お話ししました三ツの點に注意することなくして機械を用ふると農業に於ては必ずしも好い結果を來すべきものでない。貴殿が欲しいならばトラクターを買ふことは宜しい、併し何程の土地を耕さうとせらるゝのか一反歩では朝飯前に仕事が出来るが、出來た後はどうするのか、二千圓も出して手用トラクターを買ひ入れ、僅かの時間に耕作を終つた後に、餘裕を生じた時間を如何に利用するのか活用するのか貴殿はそれだけ立派な機械を持つても活用し得るかどうかは問題ではあるまいか、兎に角機械を用ふることのみを以て日本の農業革命を實際に行ふことを考へる

のも一ツの考へ方であるけれども、中々以てそこまでは容易に實行し得べきものはないではないか、と答へたことがありまするが、今日も之を繰返した殊に、矢張り此等の點を充分に承知して置くことが必要な事と思ふ。

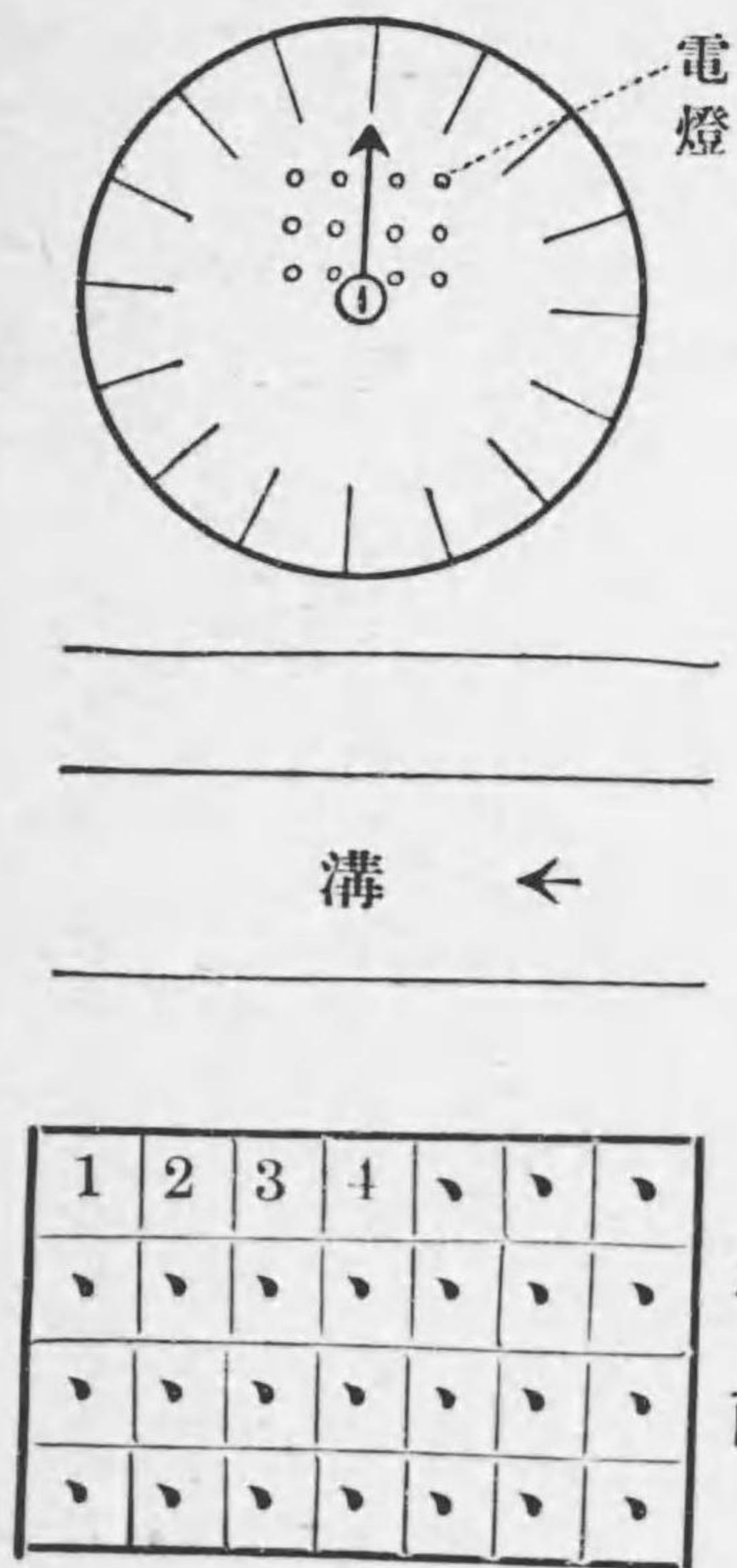
もう一ツの問題は機械の利用に伴ふべき人間の問題であります、唯、機械だけがあつた所で仕事が出来たのではない、新式の機械を使用するならば、新式の機械を使用するに足る所の頭を持つた人間がなければならぬ。新しい鋸を買つたならば、新しい鋸を適當に使用するだけの新しい知識を持つて居るでなければ、何時かは破壊もするし、何時かは損ずる場合もある、これを如何にして處置するかと云ふことも考へて置かなければならない。兎に角さう云ふ方面に就て考へた上でなければ機械を使用することは出来難い、出来ないとはいはない、出来難いのであります。殊に日本の農業と致しましては極めて小さくして、一農家としましては殆ど利用し盡し得る機械は少ないのざあります。そこで問題はこれ等の機械を利用するに就き、出来る事であつたな

らば、又出来るだけの範圍に於きましては、其の共同使用に付きて考へねばならぬ。それも小なる機械であつたならば先きにお話した所の任意の組合、即ち少人數の共同事業としたならば以て足るのでありまするが、機械が大なるに従ひ、財政的、經濟的關係が複雑になるから、法律の認められた所の組合に依つて其の機械を適當に使用することを考へねばならぬ。此の種の組合中最も適當なるものは産業組合であります。この産業組合に依り機械の利用範圍を擴張することその他農業經營の範圍を擴張する所の方面に就て、少しく説明しやうと思ふ。

第四 農業範圍の擴張と農産物の販賣

農家の共同的努力に依る農業の範圍の擴張の一ツは農産物販賣の方面であります。農産物の賣買方面に於ける農業者の勢力權の擴張には二ツある。一ツは協同販賣、第二は共同市場の建設であります。遠方の方は到底見えませぬが、これは和蘭の農業者

が寄集りまして、果物や野菜の共同販賣を爲す組合の寫眞であります（寫眞を回覽に供す）場所は平和殿のある和蘭國海牙の極く近い所にありまして、私の参りましたのは千九百二十年八月十四日でありましたが、左方に有るのが、組合の市場の建物、遙かに見えて居るのは組合員の温室であります。下の方は市場の内部に今や糶賣が行はれた所を示すのであります。組合員は其の作つた野菜をこの事務所へ船を以て持つて来る、さうすると事務所の内部は平面圖を取りますと



正 面

平 面

和蘭は海面より低い所でありますから、溝が縦横に通じて居る道路よりも却つて水路に依る方が萬事便宜の様でありますから事務所も海の上に建設してあるのであります。今右側より組合員が野菜か果物かを船に積んで持参すると組合の理事者は正面の圓盤の下の座席に立ちて此の圓盤内の指針を動かして果物又は野菜の代價を指し示すと、理事者席の溝の對岸に座席を占めた買手（階段席となり居る一々電氣釦を以て圓盤内の電燈と連結する）中適當の價格と思つた人は右電氣釦を押す、さうすると圓盤内の小電燈に火が點せられ第何番に着席した人は幾何の價格にて買入れたかを示す。かくして一回の競賣が終るのでありますかやうに簡單に済むのであるが、圓盤内に於ける針の動き方は他の糶賣とは違ふのであります。普通の競賣に於ては御承知の通り例へば一圓五十錢から始めたとして、五十錢、五十五錢、六十錢と低き價から上に糶上げるのであります。然るに和蘭組合に於ては此の機械に依つて高價の方から低價に糶り下げるのであります。即ち二圓から初めて、二圓、一圓九十五錢、一圓九十錢と

斯う糶るのであります。一の人が一圓この糶賣場に於きましては極めて簡単に糶賣が終つてしまふのみならず、少しもやかましくないのであります。喧ましいといへば日本の蠣殻町も可なり喧ましいのであります。何れの國の取引所とか糶賣場は中々やかましい、然るに此の組合の糶賣場に於てはシオンとして誰一人の話す人もない、たゞ野菜船が右から左の方に漕いで行く、其の漕ぎつゝある間に取引が済んで之を事務所外の水陸連絡の停車場に荷揚をするが、他の大なる船に積み換へるだけである。最初斯ういふ組織の此の國に出来たのは千八百八十七年でありまして千八百九十七年には十五に殖え、其の後段々増加して千九百十一年には八十以上となり、此の一年間の野菜の販賣高は一千三百萬圓ばかりになつて居ると云ふのであります。此等の野菜は主として何處へ行くかといふと英吉利に行く、英吉利人を相手にするのだから和蘭人の百姓は自ら英語を話す、佛蘭西語は勿論喋舌る、吾々をして言はしむると、和蘭の百姓さへ國際人であります。私の出席した第三回國際労働會議に於て、私共の側

の農業顧問會の議長をした人は和蘭の産業組合の理事でありましたが假りに私が獨逸語を以て演説をしますと、その人はこれを英語に翻譯し直に佛蘭西語に翻譯する、英吉利人が出て来て英語で話をしますと、議長自らこれを獨逸語に翻譯し佛蘭西語に翻譯するといふ四ヶ國の國語に通じた人が産業組合の理事であるのであります。和蘭の百姓は大農とは限りませぬ、それでも矢張りそれだけの仕事の出来るのはどう云ふ譯かと申しますと、百姓自ら倫敦や其の他の國々の商人を相手として、斯ういふ世界に類のない市場を造つて可なりに大なる仕事を爲して居るからであらうと思ふ。組合事業が無ければ市場もない、又此の如き有能の人を百姓の味方と爲すことは到底出来ぬことと思ひます。先きにお話しましたフロイダの蜜柑を取扱ふ大工場も矢張り販賣組合の仕事であるのであります、それと同じやうな仕事をして居る組合でカリフォルニアにもあります、皆様の目によく付くものであります。サンキストと斯ういふ名前の付いたもの、このサンキストといふ標しの附いて居るのは何であるかといふと、カ

リフォルニアの百姓が寄集りまして造つた所の蜜柑の販賣組合の蜜柑であります。この蜜柑販賣組合は一年間に色々の廣告をする爲めにこの位の費用を投じて居るかといふと三十八萬圓といふ金額を投じて居るのであります、茲に廣告を一つ御覽に入れませんが、今のサンキストといふ一つの商標の附いて居るものであります、随分綺麗な廣告でありまして、兎に角三十八萬圓といふ大金をかけて居るのであります、此の費用とて蜜柑一箱に宛てると三四仙位のものでありますから取扱高が如何に多いかを知ることが出来ます。此の如き多量の取扱高を實現し得たのは謂ふまでもなくカリフォルニア州の百姓が寄集つて組合を造つたが爲めである。全亞米利加の各地方は言ふに及ばず、蜜柑の多い日本までも之を輸出するといふ有様であります、これ亦農業者は組合といふ新しき制度を活用して、其の事業の範圍を擴張した例證ではありますまいか。

それから倉庫業の方面に於きましても決して單り商業者、若くは大商業者だけの仕

事ではないのであります。農業者自らその方面に就て努力して居る所の例はやはり各國を通じまして可なり廣く行はれて居るやうに私は思ふ、此處にありますのは世界最大の棉花の倉庫であります。餘り大き過ぎて一寸見憎い位のものであります、それはルイジヤナ州にあります。(寫眞を示す)これは(寫眞を示す)加奈陀のケベックといふ所の穀物倉庫で如何に大なるものかは、傍に居る汽船が如何に小さく見えるかに比較すると明にならうと思ふ、此の報告書は(書冊を示す)加奈陀の農務大臣をして居つた、クレアリンズ氏が大臣を罷めると早速この組合の組合長になつて居る穀物倉庫組合の一年間の仕事を説明したものであります、非常に大きな事業となつて居るのであります。

以上お話しした如く和蘭に於きましても、亞米利加に於きましても、佛蘭西に於ても獨逸に於ても、農業者自ら産業組合の仕組を利用して國內は勿論、國外にまでも其の業務を擴張して居るのであります。

第五 農業範圍の擴張と購買組合

それと同時に、他の方面に於きましては農業者自らに必要な品物を購入すると云ふ方面に於ても其の手を延ばして居るのであります。これは購買組合の最古の一でありまして、英吉利のロチデール開拓者の組合といふ組合の事業を書いたものであります（同組合の報告書を示す）此の組合は千八百四十四年の十月二十四日に生れたものであります。今日に於きましては一萬六千以上の組合員を有して非常に大きな仕事をして居るので、この建物は即ち組合の建物であります（寫眞を示す）が、此の組合の好成績を好模範として日用品を購入する組合が起りて農村に於ても農家の經濟を裕にする上に大なる効果を奏して居りますが、單り日用品購入の方面に働いて居るばかりでなくして、農業に必要な肥料を買ふ、買った所の肥料を更に配合する、斯う云ふ方面に於きましても多く努力をして居るのであります。日本の斯の事業を爲す組

合は購買組合と申しますが其の數は幾らあるかと云ふと大正九年度末に於て八千五百八十二、購入總高一億五千八百萬圓であります。其の八割は大體農業者の購買高を示すまで、農業者自らの努力と致しましては可なり大きくなつたと云つて宜からうと思ふ。日本の販賣組合の數は大正九年末に於て五千五百八十でありまして、一年間の販賣高が一億二千六百萬圓、斯う云ふことになつて居るのであります。

第六 農業範圍の擴張と信用制度

尙お話しなければならぬ事は資金調達と云ふ方面であるのであります。近代に於きます所の物質的文明の根據は主として、大工業の發達に依りますが、大工業發達の結果は、大なる富の集中となり、大なる富の集中の蔭には信用制度といふ一種の力を有するものがあるのであります。而して信用制度なくして大工業は出來はしませぬ、例へばこのコップを造つたとする、賣つてしまふ。果して代金を拂つて呉れるかどうかどう

か、折角造つた所のものを之を買つて呉れるかどうか、製造と消費との間に於て或時日を要するのであるが、若し此の間に信用制度がないとしますれば、幾ら大工業が出来て市場がありましたも、その製作品の處分の出来る筈はない、吾々が大工業を行ふと云ふことはどうかと云ふと、何時かは賣れるであらうといふ見込に依つて造り上げるのにある、見込に依つて造り上げたものが賣れて、さうして賣れた上に於て初めてこの富の集中と云ふことは出来上るのであります。さうしてこの信用程度の根據は何處にあるかと申しますと云ふと、言ふまでもなく投資の安全と云ふことであるのである資本を投じた所のものが安全に回収せらるると云ふことであるのである、安全と之ふことになつて來ると金が自由に集つて來る。逆に申しましても投資安全なりと云ふことであると、世間の人は此處に金を持つて來る、三井銀行は約二億圓の預金を持つて居ります。尙その上に各地方に支店を出したりして一生懸命金を集めて居りますが、併ながら何の爲めに二億の金が集つて來るか云ふと、三井銀行に信用があると斯う

言うて宜からうと思ふ。近頃の労働運動のやうに工場占領、もう工業などを資本主の手に委して居つてはどうしてもいかぬ、吾々が一緒になつてやらうではないか、工業労働者の手に支配して行かうではないかと云ふことで彼等がやつたとする、さうしてさう云ふ工業労働者の連中が寄集つたものの、さて信用如何と云ふことになつて來ると、私だつて一文も預けやうと思ひはしないかどうなるか分りはしない。さうして工場占領が假りに出来たとして、永く其の占領が續くかどうか怪しい、労働者が寄集つて普通選挙のプリンシプルに従ひまして、さうして自分達のリーダー(親方)を選挙する彼奴ならばよからうといふので選挙する親方が出来た時に親方の信用はどうかと云ふと、何人と雖も信用はしない、信用を受けて選挙された人ではあるが果して労働者の爲めのみを圖るか云ふと、労働者と其の選挙した首領との間に喧嘩ばかり起るのが通例であります。労働組合史などを見ますと、労働組合の趣旨を以て良い労働組合が成つて先づ親方をつくる、親方をつくると初めの内の過激思想が漸次に溫和になつて

来る例へば佛蘭西の大統領ミルランはさう云ふ人であつたかと云ふと、過去に於きましては有名な左黨の人であつた、急進黨の人であつた。併ながら大統領になると今度は右黨的になりまして、其の出入にも相當の軍隊を率ゐるといふ有様である。昔の思想に比べると丸切り變つて來ざるを得ないさう云ふやうな譯でありまして親方をつくるが親方を信用しない、結局親方と勞働者と喧嘩してしまふ、遂には信用されないから壞れてしまふ、親方に立つ人がない。斯う云ふことになるのでありますが、併ながら今日大きな資本を持つて居る人はどうかと云ふと、投資の安全と云ふことから考へて行くから、安全であるが爲めに十錢持った人は十錢預け、何圓持った人は何圓持つたで預けて行く、預くる人があると二億以上も直ぐ集つて來る。それを利用する場合に於ては何に利用すると云ふ途を知つて居るのでありますから、富は愈々集中すると云ふことは己むを得ない、それが詰り今日に於きます所の信用制度の發達の關係からさうなつて來るのであります。

所が勞働者に於きましても農業者に於きましても同様でありまして、信用と云ふものは中々ない、金を借るには歎願しなければならぬ、故に金を集めるには即ち信用制度を活用すると云ふ手段を考へなければならぬ。その場合に於きまして何が一番都合の好い方法であるかと申しますと云ふと、矢張りこの方面に於きましても今お話ししました所の協働、農業者の協働といふ働に依つて、餘り世間から認められなかつた所の信用を見出すことが出來て來る。日本に於きまします所のさう云ふ方面に於ける活動は信用組合として現はれて居るのであります、この位の働を有するかと申しますと大正九年度に於きやして一萬一千ばかりの組合がある。貯金の蒐集高は六億二千三百萬圓に達して居る。勿論拂戻もあるから後へ残つて居るものがそれだけあると云ふ譯ではない。勿論これは全國代用組合の取扱高であつて農村のものは其の八割と見るべきであるが、それにしても可なりの多額のものである。又代見出高に幾らあるかと云ふと、凡その見當の四億五千百萬圓、八割がそれである。獨逸に於きまして現在信用

組合の数は二萬幾らあるのでありますが、これ等の組合の間に連絡を通じ、恰も大なる資本家が日本銀行を利用するやうに、即ち獨逸の帝國銀行を利用するやうな事さへも出来ることになつて居るのであります。我が國に於ても産業組合の力を合して府縣には信用組合聯合會があつて資金の需用供給を調節するもの作用に任じて居るが、更に中央金庫を作り上げることが出来たならば地方に於ける此等小なる金融機關と中央市場とを連結することとなるべく、かくして信用の少ない所の小農業者と雖も一ツの信用組織に依りまして、今日の社會に於て必要な仕事を爲し得る所の信用を利用し得ることになるのであります。

以上協働による農業の範圍擴張といふ場合に於きましてどう云ふ事が必要になるだらうか、今までの農業者がやつて居りまするやうな態度では中々斯ういふ仕事は出来ない。今までと同じやうな、たゞ先祖傳來の農業に従事すると云ふ事だけで以て、さうして斯ういふ新しい農業の範圍の擴張せられた所に當嵌めて行くと云ふことは出来

ない、農業の範圍が擴張するに従つて、その擴張に應ずる所の人物が農村にやはり必要であるのであります。これ等の仕事を振廻して行きます所のリーダー親方がどうしても必要である、親方になるには教育を受けた所の適當の人がどうしても必要である此の種の人が無くては駄目である。今日組合の数は一萬四千ばかりありますが、此の全體の産業組合が申分なく立派に仕事をやつて居るかと云ふと、必ずしも然りとは考へかねる。人間が十分に得られないが爲めに、目的の仕事をすることは出来ないものもある、故に斯う云ふ方面に於ける仕事の任に當る人がなければならぬのであります。が、その人はどう云ふ人かと云ふと、單に商業の知識があつただけで行きはしない、事が農業なのである。事柄が先にお話した農士の範圍擴張の仕事でありますから、農業に従事したこのある人、若くは農業に興味ある人、又は農業を業務とする所の人その人でなければならぬ、さう云ふ方面に於きます所の新しい人物を要する場所が此處にあると云ふことを是非御承知置きを願ひたいと私は思ふ。

第七 職業指導と農業

職業指導など申しますと、多くの人々は、新職業を見出すとか、或は目先の變つた所の職業を見出すと云ふ方面を考ふるのが通例であります。併ながら私は斯う云ふことを申して置きたいと思ふ、職業を失ふのを豫防する、即ち失職を防止すると云ふことは新職業の指導よりは尙更大切であると私は考へて居るのであります。日本の農業に就きましては先きにお話致しました所に依りますと、極めて面白くない様であります、収入の方から見ても。經營の規模からいふても、内容に就いて考へて見ても思はしくない様であります、農業者自身の評判も、農業者以外の人の評判も香しくはない。殊に小學校教員の中に評判が一番悪いかも知れない、さう云ふやうな評判の悪いものである。然しながらこの位の人数がこれに依つて衣食をして居るか考へて見ますと、三千万といふ人間がこれで生活をして居る譯であるのである。都會に住む人

などが農村の景色の極めて佳いことなどを頻りと言ふ、例へばこれなどは都會の人が書いた繪だらうと思ふ、(獨逸人の畫きたる油繪の寫眞を示す) 此處には收穫を見て人が喜んで居る繪である。これだつて可なり綺麗です、併ながら又ある人々は農業を以ては随分困難な事だと云ふ、ミレーの『落穂拾ひ』の如きは農業の苦痛の如何なるものかを示すのでありまして、農業を美化したとは云へぬが、多くの人々は先きに御覽に入れた三枚の繪に示す如き意味に於て、農村を綺麗なものと言ふ、これは農業に三つ關係の人がいふのである。併し農業方面から申しますと、斯う云ふものなのである。(農舎の内部を書きたる油繪の寫眞を示す)、佛蘭西の畫家のものだらうと思ひますが、繪の中には牛もあれば、豚もあれば、鶏も、人間も雜居して居るのであります。これこそ農村に於ける實際であると云うて宜いかも知れない。併し農村から申しますれば、どうも斯ういふ巴里のやうな處へ行つて見たいと多くの人が考へる(巴里のカフェの繪を示す) 行つて見れば何でもない事であるけれども行つて見たいやうな氣

をすると同じやうに、何となしに憧憬れるのは通例であるのであります。所が都會の生活はどうかと云ふとこれはその中の一部を示すだらうと思ふ（老書生の繪を示す）これは老人でありますが頻りと本を讀んで居る。一生懸命何か考へて居るものと見える、家の中に住んで居るのでありますが、雨漏があると思えて破れ傘を掛けて其の下に居るのである、如何に貧乏な人であるか分るのであります。都會の人の中にはさう云ふやうな苦しい連中が誠に多い。此の多い事實を知らずに何となしに都會に憧憬れ勝であることは人間の常である。農村に居る人も自分の周圍を日々見て居ては満足して居らぬ、外部の評判は好くない、將來を考へて見ると香しくない。さうすると多くの人はどうも百姓などして居ることは止めた方が宜い、それよりも商賣人になつた方が宜い、學校の先生になつた方が宜いと云ふやうな事になつてしまふ、でさうもさう云ふ風になり勝の事であるのでありますが、併ながらさう云ふことが間違なしに實行の出来るものかどうか、苦しい所から樂な所に早く移つて行けるものかどうかと

考へて見ますと、必ずしもさうは行かない。さう行かないばかりでなくして、農業そのものを考へて見ますと、食物供給と云ふ上から申しましてもどうしても無くしてはならぬ事である。日本國全體から考へて見て、食物自給と云ふやうなことはどうしても必要な事である、のみならずその必要は多くの場合には知られてはないが、是れ無くては今日の國民としての獨立は出来ない。成程、華盛頓會議に於ては軍備縮少をしやうとか、或はベルサイユ條約に依つて世界の上に恒久的平和を持ち來さんが爲めに國際聯盟が出来たのであるが、同じ條約に依つて出来た小國の間には、昔よりも却つて國境がやかましくなつたやうな感じがする、平和の風が吹くと同時に、他の方に於きましては國境の固めがやかましくなつて居るのである。吾々は國境を通過する時には餘程面倒を見ることになりました。吾々の身體に手を觸れて『お前は一體錢を持つて居るか』といふ位である。私が埃太利から獨逸のミュンヘンに参りまする際に、インスブルグと云ふ所の停車場で私に斯ふ云ふことを聞く『お前は三千クロノネの金を

持つて居るか』と三千クロネと申しますと自分は大した金とは思はない、三千クロネ位なくちや旅行が出来る筈はない、飯を喰つても一千クロネは掛る、馬車に乗つたつて二頭立の馬車だと二千クロネ乃至三千クロネを請求する。その時に、嘘を言つては相済まぬけれども、言へば面倒だから『そんなものはない』實は九千クロネばかりどうしても無くちや仕方ないので、替へる積りでありましたが、替へる暇がなかつたのであります、けれども無いと實は言つた譯であります、こは面倒だから嘘を言つたのであります、二千クロネ當時の爲替相場に依ると日本の一圓に過ぎない。一クロネは戦争前に於きましては四十錢に當ります、その四十錢が私の參りました際に於きましては三毛に過ぎない、今日に於きましては更に一毛に下つて居るのであります。一圓許りの金を云々する位國境はやかましい、國境で以て吾々を怪しんで検査をするやうな様子をする。チェツク、スロヴァツクと云ふのは日本が大いにお手傳をして造り上げた所の國であるが、奥太利からチェツク、スロヴァツクに行く

と今でも検査をする、獨逸から行きましては検査をする、戦争前はさう云ふ事はあつた筈はないと云ふことであります。それにも拘らず國境が非常に嚴重になつて來つたのである、今日の場合に於きましては國民的生活を何處までもして行くといふ場合に於きましては、一國內、或は領土内の國民が生活を爲し得るに足る根據を國內に求めぬと、矢張り苦しい。何處の國に於きましてもさう云ふことがなかつた時には苦しい、インターナショナルイズム、世界主義と云ふやうなことは、日本のやうに外國人との關係の極めて少ない國に於きましては、時々聞くことでありますが、歐羅巴に於きましてはそんなことを言ふ人もありますけれども、併ながら實際に行はふとは思つて居らぬのであります、特別な主義者の方面に於きましてはさう云ふ論をしますけれども、實際に於ては中々そんなことを實行し得るものでない。英吉利人は相變らず獨逸人を憎む吾々一緒に船に乗つて來まして、一緒に各國人と共に遊ばうとすると英國人は獨逸人と一緒に遊ぶならば、日本人とも遊ばない、お前方が獨逸人と一緒に駈足

するならばそれには英吉利人は加はらない、斯う言うて居る、非常に憎む。佛蘭西人と獨逸人になりますと、更に深刻な憎があります、例へば私が獨逸から佛蘭西へ歸つて來ると『お前何處から來た』『獨逸から來た』『どうだ獨逸は戦争をやりはしないか』といふ様にもう氣が立つて來て『獨逸が!!』といふのである、又獨逸人をして言はしむれば『あの佛蘭西が!!』と斯う言ふのであります。『若し英吉利とか日本とか、面倒臭い人間がないならば、何時でも佛蘭西と戦争ならやります』と斯う言ふ、中々平和の風と云ふものが何處を吹くか、私はどうも分らぬ。又歐羅巴の國中に於て確實な根據の上に立つて居る國は何かと申しますと、英吉利を除いては——英吉利は多少は怪しい近頃ウキルソン將軍が殺された、ダブリンには毎日戦争がある、並吉利全體と致しましては随分怪しいのであります、併し英吉利の根柢は鞏固である。佛蘭西に於きましても、獨逸に於きましても、伊太利に於きましても、何處に國力の鞏固を示めす力があるか、國民の幸福があるか、伊太利などに參つて居りますと、いつ暴動

が起るか分らないやうな國だ。西班牙などに居りますと、私は西班牙のバロセロナといふ所に居つたのであります、或日佛國に返へらうとホテルに車を命じても自分の乗るべき車が來ない、停車場へ行くことが出來ぬ、これは、同盟罷業であつたのであります。總ての労働者が一切仕事をしない、何故仕事をしないかと云つたならば、例のサンヂタリストの親方が殺されたのであります、親方の殺されたに對して反動的示威運動をなす爲めに労働者が一般ストライキをやつた、ですから自分の荷物を持つて停車場へテク／＼歩かなければならぬ、さう云ふやうな事が時々起る。佛國に於ても起つた。伊太利に於てはホテルのボーイの同盟罷業があつて飯を喰はせられない、さう云ふやうな事でありまして、歐羅巴全體を通じて申しますると云ふと平穩なる國なしと斯う勿論言うても宜い。何時國體夫自らも變るかも知れない。今まで共和政體であつたものが急に王國になるかも知れぬ。現に私の參りました際に於て、匈牙利の王様が瑞西から飛行機に乗つて國に歸るなどいふこともあり、希臘國に於ては人民投票

を以て其の地位を維持したり、又他の國にては廢したりして居る状態であります。さう云ふやうなことで以て直ぐ國が變つて來るかも知れない、さう云ふやうな國々であるのであります。何處の國を見ましても、まだ平和は來ない。國內に於てさへ平和は來ないから、國際的の間に平和が來たなど、云ふことは、先づ思へない、實際的に思へない方が多いと思ふ。思想として思想の研究といふ方面から見れば、インターナショナルリズムとか何とか云ふことが論せられる、そんなものは差支ないと思ひますが實際としてはどうしても平和が來たとは思へない。どうしても一國々々と致しましては相當に強くなつて居なければならぬのであります。恐らく皆様の中には御記憶の確かなる方もあるだらうと思ふ、佛蘭西が獨逸の攻撃を受けました際に於きまして、我も我もと總ての人が兵隊に取られて來たのである、一切の人が國を防禦することに向て皆進んで行つたのである、所が進んで行つたけれども戦争が一月廿二日で終るものではないのであります。戦争の行はれる場所だけに人間が集つて戦争が出来るもので

はない、これは言ふ迄もない。それだから工場からして徵發せられた所の兵隊があつたならば、逆に工場に歸らなければ軍需品が出來はしない、百姓から取立てられて來て、サア食物が取れないとなつたならば、又その爲めに戦争に負けるかも知れぬ。お前は家へ歸つて百姓しなければならぬ、さう云ふやうな譯で、今度は百姓することも國防の目的を達する所以である、工場内に於て勞働することも國防に當るの所以である。教育の事業も國防を完うする所以であると云ふことに皆なつてしまつた。即ち佛蘭西國民全體が聯帶責任に於きまして戦争の目的を達する爲めには、女も男も老人も子供も、總ての人が一緒になつて戦はねばならぬと言はなければならぬ、一國を擧げて戦争に一切の力を注ぐといふ場合は勿論の事ですが、他の場合に於てもさうでなければならぬと思ふのであります。私は今日の時代に於きましては、國を成す以上は總ての國民が矢張り聯帶責任を負擔し、さうして自分達の持場々々を固めなければならぬと思ふのであります。

農業の方面に於きましては、農業其の物は國民生活上非常に大切なものである、業として亦三千萬人の人間を養つて居るのであります。だからこれ等の農業を今日よりも悪い方に向つて行かしのむると云ふことになる。それ等の人々が職業を失はなければならぬ、その職業を失ふと云ふことになつて來ると救済の途がなければならぬ。昔のやうに職業を失つてどうでも構ひはしない、斯う云ふならば宜いのでありますけれども、今日の世の中に於きまして一國內に貧乏人が多いと云ふことは、その國の負擔でなくてはならない、苟くも人間である以上は、その人を救つて行かなければならぬ。失職、職業を失ふことの保護のある國は歐羅巴に於きまして可なり廣いのであります。その保護は誰がやるかと云ふと、國民が之をやるのが當然であるのである、従つて彼等はごうするかと云ふと、失職の虞と云ふものを出来るだけ無くすると云ふことに努力するのであります。亞米利加の災害保險、労働者の保險などに就きまして若し工場の労働時間中に労働者が傷を受けたとか何とか云ふ事があるといふと

工場主は一人に付きましてどうしても毎々一弗乃至一弗半の金を與へなければならぬ工場主自らやらなければならぬと云ふ法律を布いて居るのであります。その法律を布いた結果と致しまして、亞米利加の事業主はその災害をなくするが爲めに非常な努力をした、事業主そのもの、利害に關係するから、事業主そのものが率先してやる、所謂セーフティーデー、安全第一デーと云ふやうな、さう云ふ方法を以て一生懸命で以て労働者の保護を考へ、労働者の災害の來ないやうな計畫を立て、在來起つた災害を或は九十パーセント以上豫防することが出来たといふ成績さへも現はれて居るのである。さう云ふ事をする爲めに、さういふ危険を避ける爲めに色々な方法を立て、豫防すると同時に、他の方に於きましても職業を失はしむると云ふことに就ては重大問題でありますから、それを避ける所的手段方法を講ずるに就て十分努力することは、亞米利加に於きまして英吉利に於きましても非常なものであるのであります。

吾々は今日農業の状態から見ますといふと、成程先きにお話したやうに不評判のや

うな點もある、又經濟上から見ますと云ふと極めて貧弱な經濟力とか持つて居らない將來を考へて見ますといふと必ずしも幸福がありさうもない。併ながら農業そのものを立派に存在せしめないと云ふことになつて見ますと云ふと、少なくとも二千萬人、或はその半分にして一千万人、斯ういふやうな多數の人に關係した所の問題である。さうして是だけ多くの人間と云ふものを日本の今日の狀況、若くは將來國際的關係から考へても、到底一千万人の人間を商農界に入れるとか、或は工業界に入れると云ふやうなことの出来るものでもなし、出来たからと云うてもそれが將來長く續きさうもない。さう云ふ場合に於きましては私はどうか皆様の力に依つて、現在農業に従事して居る者であつたならば、其の人々をして土地を去らしむると云ふやうなことに人爲を用ひて下さつたら甚だ困る、人爲を以てさう云ふ者をさういふ方向に指導して貰つたら甚だ困るやうに思ふ。どうしても現在の農業だけは少なくともこれを存續せしめその上に更に今お話しました所の最近に於きましては農業の經營の範圍が擴張されつ

ゝあつて、さうしてその擴張された方面に於ける所の進歩した指導者、その進歩した指導者を必要とする所の場所も多いのでありますから、ごうかさう云ふ方面をどうぞ御記憶に止めて適當なる指導をして戴きたいと私は思ふのであります。

本日お話致しましたことは甚だ不十分でありまして、又餘り急ぎまして十分お話をしなかつた點もあるやうであります、是だけでお許しして戴きたい。

職業指導 下卷終

大正十三年九月五日印刷
大正十三年九月十日發行

上下卷 定價各金壹圓五拾錢

不許	職業指導	複製
----	------	----

編纂者 文部省

普通學務局

發行者 社會教育協會

東京市牛込區揚場町壹番地

口座東京六七〇

右代表者 外松荒三

東京市神田區錦町一丁目十九番地

印刷者 孝井芳藏

發賣所

東京市日本橋區本銀町三丁目

東京寶文館

東京市牛込區揚場町一番地

帝國書院

口座東京二八〇

振替東京六七〇一四

印刷所 東京神田區芳文堂

文部省編纂 社會教育協會發行

震災に關する
教育資料

美事善行

洋裝全一冊
定價金壹圓五拾錢
送料金八錢

本書は大正十二年九月一日に起れる關東大震災當時或は社會の爲に或は罹災者の爲に或は家族の爲に或は友人の爲に或は主家の爲に危険を冒して救助に盡力したる美事善行數百件を詳細に調査蒐録せるものにして、非常時に於ける我が國人の犠牲的精神奉公的精神を遺憾なく發揮し一讀人をして感奮興起せしむるものあり學校に於ける講話資料として將た一般家庭の教訓資料として絶好の讀物たり。

發賣所

東京市牛込區揚場町
振替口座東京六七〇一四
東京市日本橋區本銀町
振替口座東京二八〇

帝國書院
東京寶文館

13A
2
41

終

